





OneLINK Bridge
AVインターフェース取扱説明書

■安全上のご注意

取扱説明書には、お使いになる方や他の人への危害と財産の損害を未然に防ぎ、安全に正しくお使いいただくために、重要な内容を記載しています。以下の注意事項をよくお読みの上、正しくお使いください。

注意事項は危険や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、誤った扱いをすると生じることが想定される内容を次の定義のように「警告」「注意」の二つに区分しています。

 警告	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容です。
 注意	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される内容です。

警告

- 水に入れたり、ぬらしたりしないでください。火災や感電の原因になります。
- AC100V 50/60Hzの電源で使用してください。これ以外の電源では、火災や感電の原因となります。
- 必ず専用の電源コードを使用してください。これ以外のものを使用すると火災の原因となります。
- 付属の電源ケーブルを他の製品に使用しないでください。
- 電源コードの上に重い物をのせたり、熱器具に近づけたり、無理に引っ張ったりしないでください。コードが破損して火災や感電の原因になります。電源コードが傷んだら（断線や芯線の露出など）、直ちに使用を中止し販売店に交換をご依頼ください。
- 水が入った容器や金属片などを、機器の上に置かないでください。こぼれたり、中に入ったりすると、火災や感電の原因となります。
- 万一、落したり筐体を破損した場合は、直ちに使用を中止し、修理を依頼してください。そのまま使用すると、火災の原因となります。
- 雷が鳴り出したら、金属部分や電源プラグに触れないでください。感電の恐れがあります。
- 煙がでる、異臭がする、水や異物が入った、破損した等の異常がある時は、ただちに電源プラグをコンセントから抜き、修理を依頼してください。異常状態のまま使用すると、火災や感電の原因となります。
- 分解や改造は行わないでください。お客様が保守できる部品は、内部にはありません。分解や改造は保証期間内でも保証の対象外となるばかりでなく、火災や感電の原因となります。

注意

- 不安定な場所に設置しないでください。落下によるけがの原因となります。
- 以下のような場所に設置しないでください。
 - ・直射日光の当たる場所
 - ・湿気の多い場所
 - ・温度の特に高い場所、または低い場所
 - ・ほこりの多い場所
 - ・振動の多い場所
- 機器をラックに設置する場合は、必ず専用のラックマウント金具（オプション）を使用し、重量を支えるために全てのネジをしっかり固定してください。落下すると、けがや器物を破損する原因となります。
- 配線は、電源コードを抜いてから説明書に従って正しく行ってください。電源コードを差し込んだまま配線すると、感電する恐れがあります。また、誤配線によるショート等は火災の原因となります。
- 電源を入れる前に、音量を最小にしてください。突然大きな音が出て聴覚障害などの原因となります。
- 機器の移動は、電源プラグをコンセントから抜き、他の機器との接続を全て外してから行ってください。
- ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となります。
- 電源プラグを抜くときに、電源コードを引っ張らないでください。コードが傷つき火災や感電の原因となります。

■はじめに

このたびは本製品をご購入いただき、誠にありがとうございます。

まずこちらの取扱説明書をお読みいただき、性能をご理解いただいた上で用途に応じた最適な使用方法を追求してください。

保証について

- ・ 保証書は必ず「お買い上げ年月日」「お買い上げ店名 / 所在地」の記入をご確認いただき、製品とともにお受け取りください。お買い上げ日より2年間は保証期間です。保証書記載事項に基づき、無償修理等を保証させていただきます。修理等はお買い上げの販売店までご依頼ください。
- ・ お買い上げ時に「お買い上げ年月日」「お買い上げ店名 / 所在地」が正しく記入されていない場合は、保証書が無効になり、無償修理を受けられないことがあります。記載内容が不十分でしたら、速やかに販売店にお問い合わせください。
- ・ 改造など通常の使用範囲を超えた取扱いによる故障や、設計・製造以外の要因で起きた不都合は期間内であっても保証の対象外となります。

故障かな？と思われる症状が出たときには

こちらの取扱説明書をもう一度お読みになり、接続や操作などをご確認ください。それでも改善されないときはお買い上げの販売店までお問い合わせください。調整・修理いたします。

目次

概要	1
このガイドの内容	2
特長	2
OneLINK Bridge AVインターフェースの開梱	3
HDBaseTカメラ用OneLINK Bridge	3
サードパーティ製コーデックで使用するHDBaseTカメラ用OneLINK Bridge	3
HDMIカメラ用OneLINK Bridge	4
サードパーティ製コーデックで使用するHDMIカメラ用OneLINK Bridge	5
OneLINK機器の外観	7
受信機の前面パネル	7
受信機の背面パネル	7
EZCamera Interface Module (EZIM)の背面パネル	8
OneLINK機器のインストール	9
ケーブル接続に関する注意	9
RS-232 コネクタのピン配列	10
OneLINK機器の取り付け	10
半埋込型シーリングマウントを使用した取り付けについて	10
接続図のきさい表記ルール	11
HDBaseT カメラの接続	11
HDBaseTカメラのキットまたはシステム	11
Vaddio HDBaseTカメラを接続する	12
サードパーティ製コーデックで使用するHDBaseTカメラの接続	13
サードパーティ製コーデックで使用するHDBaseTカメラ用キット	13
Vaddio HDBaseTカメラとPolycomコーデックの接続	14
Vaddio HDBaseTカメラとCiscoコーデックの接続	16
HDMIカメラの接続	20
HDMI カメラ用キット	20
RoboSHOT HDMIカメラを接続する	21
Polycom EagleEye IVカメラの接続	22
Ciscoカメラの接続	23
ソニーまたはパナソニックHDMIカメラを接続する	25
サードパーティ製コーデックで使用するHDMIカメラの接続	26
サードパーティ製コーデックで使用するHDMI カメラ用キット	26
RoboSHOT HDMIカメラとPolycomコーデックの接続	27
Polycom EagleEye IVカメラとPolycomコーデックの接続	29
RoboSHOT HDMI カメラとCiscoコーデックの接続	31
Cisco カメラとコーデックの接続	34
装置の電源を入れる	39
カメラの設定	39
本体の設定および管理	39
対応ウェブブラウザ	39
Webインターフェースへのアクセス	40
Webインターフェース構造の早見表	41
ネットワーク設定の構成	42
ホスト名の割り当て	43

タイムゾーンとNTPサーバーの指定	43
アクセスとパスワードの管理	44
Telnetアクセスの無効化	44
HTTPSの有効化	44
Webインターフェースへのルーム情報の追加	45
ストリーミング設定の構成	46
マイクへのファンタム電源の有効化	47
オーディオ設定の構成	48
マイクのミュート	48
個々の入力または出力のボリュームをコントロールする	48
マイクの工場出荷時設定	49
聴衆のいる環境でのマイク設定	50
マイクの調整	51
スピーカーの調整	52
オーディオフィードバックの防止	53
工場出荷時設定のオーディオマトリクス	54
オーディオのルーティング	54
システム情報の閲覧	55
設定データの保存(Exporting)及び復元(Importing)	55
OneLINK Bridgeの再起動	56
工場出荷時設定へのリストア	56
ファームウェアアップデートの開始	57
TelnetシリアルコマンドAPI	58
link powerコマンド	58
audio volmeコマンド	59
audio muteコマンド	60
audio routingコマンド	61
audio crosspoint gainコマンド	62
sleepコマンド	63
network setting getコマンド	63
network pingコマンド	64
system rebootコマンド	64
system factory resetコマンド	65
historyコマンド	66
versionコマンド	66
helpコマンド	67
exitコマンド	67
仕様	68
困ったときは	69
使用上の注意点	76

概要

このガイドは、OneLINK™ Bridge AVインターフェースを解説します。このインターフェースには、Vaddioカメラをサードパーティ製コーデックで使用したり、サードパーティ製カメラをVaddioシステムで使用したりするための以下のキット構成があります。

- OneLINK Bridge AVインターフェース
- Polycom コーデックを搭載したPolycom EagleEye IVカメラ用OneLINK Bridge AVインターフェース
- ソニーおよびパナソニックカメラ用OneLINK Bridge AVインターフェース
- Polycom コーデックで使用するRoboSHOT HDMIカメラ用OneLINK Bridge AVインターフェース(生産完了)
- Polycom コーデックで使用するVaddio HDBaseTカメラ用OneLINK Bridge AVインターフェース
- Cisco コーデックを搭載したCiscoカメラ用OneLINK Bridge AVインターフェース
- Ciscoコーデックで使用するRoboSHOT HDMI カメラ用OneLINK Bridge AVインターフェース
※カメラは生産完了です。
- Ciscoコーデックで使用するVaddio HDBaseT カメラ用OneLINK Bridge AVインターフェース
- RoboSHOT HDMI カメラ用OneLINK Bridge AVインターフェース(カメラは生産完了)

OneLINK Bridge AVインターフェースは、複数台のVaddioカメラで構成するシステムにも使用します。

注意

RoboSHOT 12 HDMI および RoboSHOT 30 HDMI カメラは生産完了となっていますが、RoboSHOT HDMI カメラ用のインターフェースは引き続き入手可能です。OneLINKインターフェースは、RoboSHOT 12E HDMI および RoboSHOT 30E HDMI カメラと互換性がありません。



HDMIカメラをケーブル延長するキットには、OneLINK EZCamera Interface Module (EZIM)が同梱されています。



このガイドの内容

このガイドでは、以下について説明します:

- 梱包内容
- 外観説明
- インストール手順
- 設定および管理
- サードパーティ制御用のTelnet API
- 仕様
- トラブルシューティングとメンテナンス方法

特長

- AV Bridgeの機能は、あらゆる会議室を業務用AV機器の接続を可能にしてBYOD環境に変えます。Web会議のクライアント用にUSB3.0オーディオおよびビデオストリーミングを配信します。
- 2chのラインレベルまたはマイクレベルのバランスオーディオ入力、および2chのラインレベルのバランスオーディオ出力を搭載
- 非圧縮のUSB3.0ストリーム、HDMI 1.4b、および3G-SDIを同時に出力し、カメラからのIPストリーミングをパススルーします。
- Webインターフェースによる管理、およびTelnetやRS-232シリアル通信で制御コントローラーと接続。
- 電源、制御、ビデオ、ストリーミングを1本のCATケーブルで伝送するため、シンプルなカメラ設置が可能。
- HDMI およびHDBaseT™カメラの設置距離を、Cat-6ケーブルを使用して最大100m、Cat-5eケーブルを使用して最大70m延長可能です。
- 従来のRoboSHOT HDMIおよびその他のHDMIカメラとも互換性があります。
- Vaddioカメラを使用したシステム構成で使用できるほか、Polycom およびCisco コーデックでも使用可能なキットを用意。

注意

OneLINK 製品は、RoboSHOT 12E HDMI またはRoboSHOT 30E HDMI カメラには対応していません

OneLINK Bridge AVインターフェースの開梱

最初に開封した際に同梱されている付属品を確認してください。OneLINK Bridgeの梱包内容を以下に記載します。すべてのOneLINK機器には、電源アダプターとAC電源コードを同梱しています。もし入っていないものがありましたら、販売店にご連絡ください。

HDBaseTカメラ用OneLINK Bridge

Vaddio HDBaseT カメラ用OneLINK Bridge

※カメラは付属していません。

- OneLINK Bridge AVインターフェース
- DC48V/1.36A電源アダプター、AC電源コード
- USB 3.0 A-Bケーブル(1.8m)。
- 3.5mm、3ピンPhoenix コネクタープラグ × 4
- EZCamera RS-232 コントロールアダプター



サードパーティ製コーデックで使用するHDBaseTカメラ用OneLINK Bridge

Polycom コーデックで使用するVaddio HDBaseT カメラ用OneLINK Bridge

※カメラとコーデックは含まれません。

- OneLINK Bridge AVインターフェース
- DC48V/1.36A電源アダプター、AC電源コード
- USB 3.0 A - B ケーブル(1.8m)
- 3.5mm、3ピンPhoenixコネクタープラグ × 4
- ファンアウトケーブル(コーデック側、0.6m)。
- EZCamera RS-232 コントロールアダプター



Ciscoコーデックで使用するVaddio HDBaseT カメラ用OneLINK Bridge

※カメラとコーデックは含まれません。

注意

Cisco SX20 コーデックに接続する場合は、Cisco製のスプリットケーブル(CAB-PHD4XS2SPLIT)を別途用意する必要があります。

- OneLINK Bridge AVインターフェース
- DC48V/1.36 A電源アダプター、AC電源コード
- USB 3.0 A-B ケーブル(1.8m)。
- 3.5mm、3ピンPhoenixコネクタープラグ × 4
- HDMIケーブル(0.9m)。
- Cisco 用のカスタムピン出力Cat-5e ケーブル(0.9m)
- Cat-5eパッチケーブル(0.9m)
- EZCamera RS-232 コントロールアダプター



HDMI カメラ用OneLINK Bridge

•RoboSHOT HDMI カメラ用OneLINK Bridge

※カメラは付属していません。

- OneLINK Bridge AVインターフェース
- OneLINK EZCamera Interface Module (EZIM) (取付ネジ付き)
- DC48V/1.36 A電源アダプター、AC電源コード
- USB 3.0 A-B ケーブル(1.8m)
- 3.5mm、3ピンPhoenix コネクタプラグ × 4
- 電源ケーブルEIAJ-04～EIAJ-04(0.3m)
- HDMIケーブル(0.3m)
- Cat-5eパッチケーブル(0.3m) × 2
- EZCamera RS-232 コントロールアダプター



注意

RoboSHOT 12 HDMI および RoboSHOT 30 HDMI カメラは生産完了です。本製品は、RoboSHOT 12E HDMI およびRoboSHOT 30E HDMI カメラには対応していません。

ソニーおよびパナソニックカメラ用OneLINK Bridge

※カメラは付属していません。

- OneLINK Bridge AVインターフェース
- OneLINK EZCameraインターフェースユニット(EZIM)
- DC48V/1.36A電源アダプター、AC電源コード付
- USB 3.0 A-B ケーブル(1.8m)
- 3.5mm、3ピンPhoenix コネクタプラグ × 4
- ソニーおよびパナソニックカメラ用壁掛け金具
- 電源ケーブルEIAJ-04～EIAJ-04(0.3m)
- 電源ケーブルEIAJ-04～3x6.3mm(0.3m)
- HDMIケーブル(0.3m)
- RJ-45-8ピンミニDINケーブル(0.3m)
- Cat-5eパッチケーブル(0.3m)



サードパーティ製コーデックで使用するHDMIカメラ用OneLINK Bridge

Polycom コーデック で使用するPolycom カメラ用OneLINK Bridge

※ケーブル延長用途

※カメラとコーデックは含まれません。

- OneLINK Bridge AVインターフェース
- OneLINK EZCameraインターフェースユニット(EZIM)
- DC48V/1.36 A電源アダプター、AC電源コード
- Polycom コーデックおよびカメラ用壁掛け金具
- USB 3.0 A-B ケーブル(1.8m)。
- 3.5mm、3ピンPhoenix コネクタプラグ × 4
- ファンアウトケーブル(EZIMユニット側、0.3m)
- ファンアウトケーブル(コーデック側、0.6m)
- EZCamera RS-232 コントロールアダプター



Polycom コーデックで使用するRoboSHOT HDMI 用OneLINK Bridge

※カメラとコーデックは含まれません。

- OneLINK Bridge AVインターフェース
- OneLINK EZCameraインターフェースユニット(EZIM)
- DC48V/1.36A電源アダプター、AC電源コード付
- USB 3.0 A-B ケーブル(1.8m)。
- 3.5mm、3ピンPhoenix コネクタープラグ × 4
- ファンアウトケーブル(コーデック側、0.6m)
- Cat-5eパッチケーブル(0.3m) × 2
- HDMIケーブル(0.3m)
- 電源ケーブルEIAJ-04～EIAJ-04(0.3m)



注意

RoboSHOT 12 HDMI および RoboSHOT 30 HDMI カメラは生産完了です。本製品は、RoboSHOT 12E HDMI および RoboSHOT 30E HDMI カメラには対応していません。

Ciscoコーデックを使用したCiscoカメラ用OneLINK Bridge

※ケーブル延長用途

※カメラとコーデックは含まれません。

注意

Cisco SX20 コーデックに接続する場合は、Cisco製のスプリットケーブル(CAB-PHD4XS2SPLIT)を別途用意する必要があります。このケーブルは、Cisco Precision 40またはPrecision HD 1080p2.5xカメラに接続する場合にも必要です。これらのカメラのうちの1台とSX20コーデックを接続する場合には、そのうちの2台が必要になります。

- OneLINK Bridge AVインターフェース
- OneLINK EZCamera Interface Module (EZIM) (取付ネジ付)
- DC48V/1.36 A電源アダプター、AC電源コード
- Ciscoコーデックおよびカメラ用の壁掛け金具
- USB 3.0 A - B ケーブル(1.8m)
- 3.5mm、3ピンPhoenix コネクタープラグ × 4
- 電源ケーブルEIAJ-04~5.5x2.1mm(0.3m)
- HDMIケーブル(0.3m)
- HDMIケーブル(0.9m)
- Cisco カメラ用のカスタムピン出力Cat-5e ケーブル(0.3m)
- Cisco SX20 用のカスタムピン出力Cat-5e ケーブル(0.9m)
- Cat-5eパッチケーブル(0.3m)
- Cat-5eパッチケーブル(0.9m)
- EZCamera RS-232 コントロールアダプター



Ciscoコーデックを使用したRoboSHOT HDMI 用OneLINK Bridge

※カメラとコーデックは含まれません。

注意

Cisco SX20 コーデックに接続する場合は、Cisco製のスプリットケーブル(CAB-PHD4XS2SPLIT)を別途用意する必要があります。

- OneLINK Bridge AVインターフェース
- OneLINK EZCamera Interface Module (EZIM) (取付ネジ付)
- 48 VDC/1.36 A電源アダプター、AC コードセット付き
- USB 3.0 A-B ケーブル(1.8m)
- 3.5mm、3ピンPhoenix コネクタープラグ × 4
- 電源ケーブルEIAJ-04~EIAJ-04(0.3m)
- HDMIケーブル(0.3m)
- HDMIケーブル、(0.9m)
- Cisco 用のカスタムピン出力Cat-5e ケーブル(0.9m)
- Cat-5eパッチケーブル(0.3m) × 2
- Cat-5eパッチケーブル(0.9m)
- EZCamera RS-232 コントロールアダプター



注意

RoboSHOT 12 HDMI および RoboSHOT 30 HDMI カメラは生産完了です。本製品は、RoboSHOT 12E HDMI およびRoboSHOT 30E HDMI カメラには対応していません。

OneLINK機器の外観

このセクションでは、OneLINK Bridge AVインターフェースの前面および背面パネルについて説明します。

OneLINK Bridge AVインターフェースは通常、他の機器と同じ場所に設置しカメラから最大100m 離すことが可能です。HDMIカメラで使用するOneLINKキットには、EZCamera Interface Module (EZIM) というHDBaseTコンバーターも含まれています。このコンバーターはカメラに隣接して取り付けてください。

OneLINK Bridgeの前面パネル



- **USBインジケータ** : USB ストリームが存在する場合に点灯します。
- **NETWORKインジケータ** : IP ネットワークに接続されているときに点灯します。
- **SOURCEインジケータ** : ビデオ入力が発見されると点灯します。
- **OneLINK インジケータ** : OneLINK Bridge がHDBaseTカメラまたはOneLINK EZIM への接続を検出すると点灯します。
- **Display IP and MAC Address ボタン** : このボタンを押すと(青色に点灯)、本体のIPアドレスとMACアドレスをHDMI、HD-SDI、およびUSBストリームにオーバーレイし、接続したディスプレイ上に表示します。
- **Power System Reset ボタン** : このボタンを押すと(赤色に点灯)、接続されたカメラに影響を与えずに本体を再起動します。

OneLINK Bridgeの背面パネル



左から:

- **電源入力ジャック** : 付属のDC48V/1.36A電源アダプターを接続します。
- **OneLINKインターフェースポート** : Cat-5e(またはそれ以上)ケーブルをEZIMユニット、またはVaddio HDBaseTカメラに接続します。この双方向接続は、ビデオ、オーディオ(利用可能な場合)、カメラからのH.264 IPストリーミングを含むネットワーク接続(利用可能な場合)、RS-232制御、およびDC12V電源を伝送します。
- **HDMI 出力** : 接続したディスプレイへの HDMI 出力です。
- **USB 3.0** : 会議アプリケーション用の PCM オーディオ付き非圧縮ビデオストリーム出力です。
- **HD-SDI** : カメラからのビデオ出力です。
- **ネットワークポート** : H.264 IPストリーミング(カメラの機能による)、Webインターフェースアクセス、およびTelnet APIを介してサードパーティ製制御システムからIP制御を行うネットワークポートです。
- **RS-232ポート** : カメラのPTZコントロール用のRS-232ポートです。
- **Audio I/O Line Out 1 およびLine Out 2** : 会議アプリケーションまたはオーディオマトリクスで設定された相手側の音声を拡声するためのオーディオ出力です。
- **Audio I/O Mic/Line In 1 およびMic/Line In 2** : マイクまたはその他のオーディオ入力です。

EZCamera Interface Module (EZIM)の背面パネル

OneLINK機器をHDMIカメラで使用する場合は、EZIMユニットが必要です。



左から:

- **電源出力ジャック:**カメラに電源を供給します。本製品には、カメラの電源入力をこのジャックに接続するための適切なケーブルを同梱しています。
- **ネットワークポート:**H.264 IPストリーミング(カメラの機能による)、Webインターフェースアクセス、およびTelnet API経由でサードパーティ製制御システムからの制御を行うためのネットワークポートです。カメラのネットワークポートにも接続します。
- **RS-232 ポート:**PTZカメラを制御するためのRS-232ポートです。購入したキットによっては、カメラと接続するケーブルや変換アダプターを付属しています。
- **HDMI入力:**カメラからHDMIビデオ信号を受信します。カメラのHDMI出力端子と接続します。
- **OneLINK ポート:**OneLINK Bridgeへ1本のCATケーブルで接続します。この双方向接続は、ビデオ、電源、および制御を伝送します。

OneLINK機器のインストール

このセクションではインストールに必要な以下の項目を説明します。

- インストールを開始する前に知っておいていただきたいこと
- 基本的な接続例

ケーブル接続に関する注意

EZIMユニット（またはEZIMユニットを使用しない場合はカメラ）とOneLINKBridge間のケーブル長は、Cat-6またはCat-7ケーブルを使用する場合は最大100m、Cat-5eケーブルを使用する場合は最大70mです。

Cat-6 またはCat-7 ケーブルによる配線は、より長い最大ケーブル配線距離を可能にし、電磁波ノイズの多い環境でより良い結果をもたらす場合があります。ケーブルが巻かれたり、他のケーブルと密に配線されたり、電磁干渉の発生源（電源線や蛍光灯など）の近くに配線されたりする場合は、シールドケーブルを使用することをお勧めします。疑わしい場合は、シールドされたCat-6 ケーブルを使用してください。

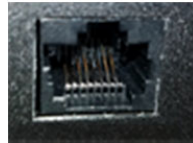
注意

Vaddio製品用にケーブルを自作する場合、パススルータイプのRJ-45コネクタは使用しないでください。正しく圧着されていないと、本製品のコネクタを破損したり、接触不良を起こしたり、信号品質が低下したりする恐れがあります。コネクタに物理的な損傷があると、保証が無効になります。



正しいコネクタ

接触爪がケーブルコネクタと確実に接触します



損傷するコネクタ

接触爪に曲がりがあり、ケーブルコネクタと確実に接触しないものがあります。

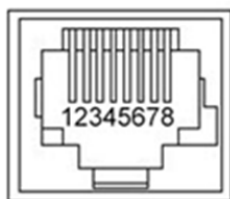
高品質のコネクタと高品質の圧着工具の使用をお勧めします。



ヒント

人的ミスを防ぐために、すべてのケーブルの両端にラベルを付けてください。

RS-232 コネクターのピン配列



OneLINK Bridge : RS-232 コントロールポート

1. 未使用
2. 未使用
3. 未使用
4. 未使用
5. 未使用
6. GND: 緑色
7. RX (コントローラーのTXから): 茶/白色
8. TX (コントローラーのRXへ): 茶色

OneLINK EZIM : RS-232 コントロールポート

1. 未使用
2. 未使用
3. 未使用
4. IR GND
5. IR (non-mod)
6. GND: 緑色
7. TX (カメラのRXへ): 茶/白色
8. RX (カメラのTXから): 茶色

注意

Vaddiolは、Cat-5ケーブル配線用の 568Bケーブル規格に準拠することを推奨します。

OneLINK機器の取り付け

OneLINK EZIMユニットを含めたOneLINK機器を取り付ける場合は、カメラと一緒にまたはその近くにEZIMユニットを設置します。カメラ用のウォールマウント金具には、2本の6-32ネジを使用してEZIMをマウント金具の下面に取り付けるための穴があります。カメラの取り付け時に必要なケーブルをすべて接続します。

OneLINK Bridgeは、ラックまたはテーブル下の取り付け金具を使用できます。

半埋込型シーリングマウントを使用した取り付けについて

接続したカメラが半埋込型シーリングマウントに取り付けられている場合、カメラのIR受光部はIRリモコンからのIR信号を受信できません。半埋込型シーリングマウントには、カメラにコマンドを転送できるIR受信機があります。これには、別売りの電源拡張モジュール(999-1005-021)を使用して別途電源を供給する必要があります。OneLINK Bridgeから電源が供給されているカメラからは、マウントのIR受信機に電源を供給することができません。

接続図の表記ルール

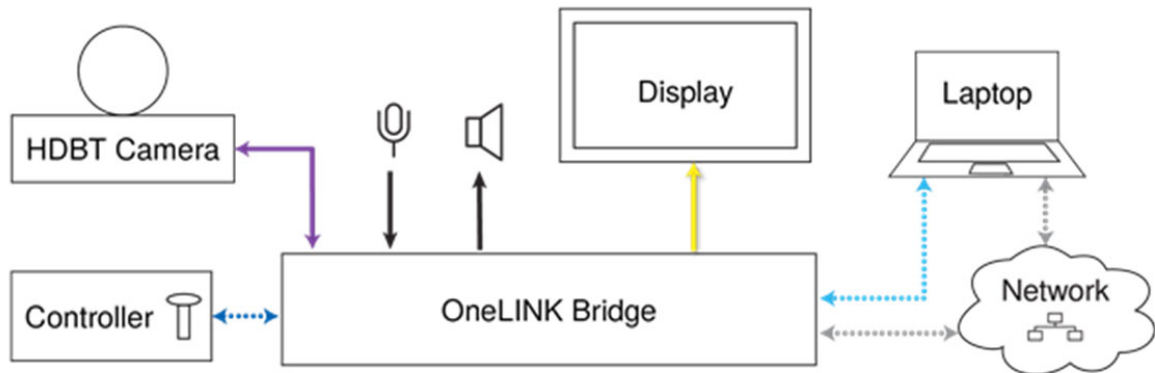
以下のセクションでは、OneLINK機器を使用した代表的なシステム構成の接続図を紹介します。このガイドのすべての図では、以下の表記ルールを使用します。



HDBaseT カメラの接続

この構成では、OneLINK Bridge はネットワーク接続、電源、および制御をHDBaseTカメラに延長し、カメラの映像をディスプレイにHDMIビデオで出力します。カメラは、OneLINK Bridge へのRS-232 シリアル接続またはネットワーク接続で、Pan/Tilt/Zoomコントロールできます。OneLINK Bridge は、マイクとスピーカーの接続も提供し、USBストリームを使ってUSBインターフェースの無いカメラやオーディオ機器をUSBベースの会議アプリケーションにブリッジすることができます。

またカメラにIPストリーミング機能がある場合、OneLINK Bridgeはネットワークにもブリッジできます。この場合、2160p/30HzまでのIPストリーミング解像度がサポートされています。HDMI出力の解像度やストリーミングパラメータ(解像度を含む)は、OneLINK Bridgeではなくカメラ側で設定します。



上図のコントローラーはオプションです。

HDBaseT カメラのキットまたはシステム

上のブロック図は以下のキットまたはシステムに適用されます:

- Vaddio HDBaseTカメラ用OneLINK Bridge :すべてのVaddio HDBaseTカメラと互換性があります。
- RoboSHOT 12 HDBaseT OneLINK Bridgeシステム
- RoboSHOT 30 HDBaseT OneLINK Bridgeシステム
- RoboSHOT 20 UHD OneLINK Bridgeシステム
- DocCAM 20 HDBaseT OneLINK Bridgeシステム
- Vaddio HDBaseTカメラとOneLINK Bridge AVインターフェースで構成される将来的なシステム

Vaddio HDBaseT カメラを接続する

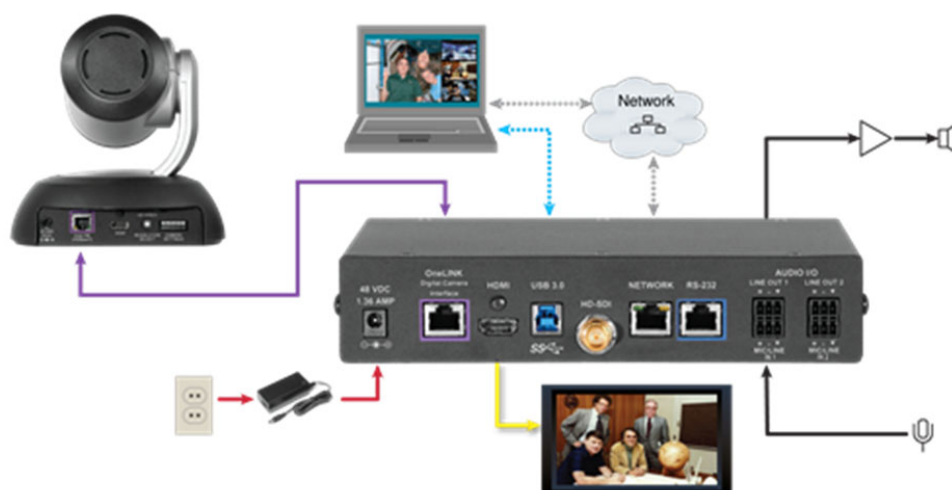
下図では、OneLINK Bridge はネットワーク接続、電源、および制御をRoboSHOT 12 HDBT カメラに延長し、カメラからの映像をHDMIビデオでディスプレイに表示します。OneLINK Bridge はオーディオ接続も提供し、USB ストリームを使ってUSBインターフェースを持たない機器をUSBベースの会議アプリケーションにブリッジすることができます。

図中の機材:

- OneLINK Bridge AVインターフェース
- RoboSHOT 12 HDBT カメラ
- HDMIディスプレイおよびHDMIケーブル(別売)
- 会議アプリケーションを使用するラップトップPC(別売)
- ラップトップPC用USB 3.0ケーブル
- 音声ケーブル(別売) コネクタは付属
- マイクおよびスピーカーへの接続ケーブル(別売)
- OneLINKおよびネットワーク接続用のCat-5eケーブル(別売)

RoboSHOT HDBTカメラ

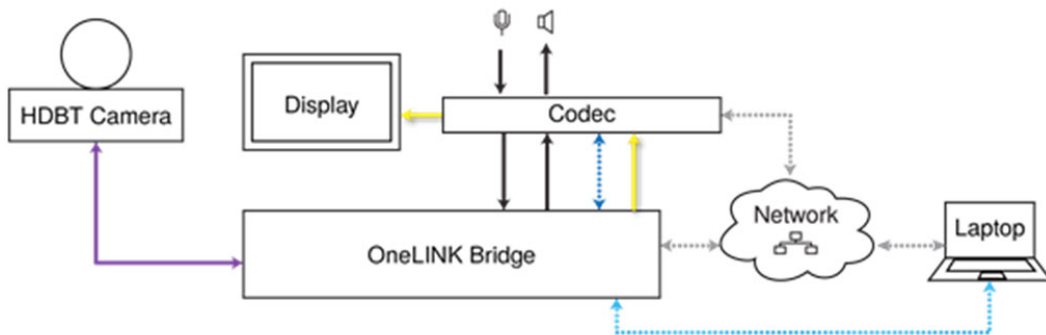
他のVaddio HDBaseT カメラも同様に接続します。



サードパーティ製コーデックで使用するHDBaseTカメラの接続

この構成では、OneLINK Bridge はネットワーク接続、電源、および制御をHDBaseT カメラに延長し、カメラの映像をコーデックにHDMIビデオとして出力します。使用するコーデックに応じて、OneLINK BridgeにRS-232またはIP ネットワーク経由で接続し通信することもできます。OneLINK Bridge は、カメラ、コーデック、およびコーデックに接続されたオーディオ機器をブリッジしてUSBベースの会議アプリケーションに送るUSBストリームを作成することができます。

カメラにIPストリーミング機能がある場合、OneLINK BridgeはIPストリーミングをネットワークにブリッジします。2160p/30までのIPストリーミング解像度がサポートされています。HDMI出力解像度とストリーミングパラメーター（解像度を含む）は、OneLINK Bridgeではなくカメラ側で設定します。



サードパーティ製コーデックで使用するHDBaseTカメラ用キット

上のブロック図は以下のキットに適用されます：

- Polycom Codecを使用したVaddio HDBaseTカメラ用OneLINK Bridge：すべてのVaddio HDBaseT カメラおよびPolycom RealPresence Group シリーズコーデックと互換性があります。
- Cisco Codecを使用したVaddio HDBaseTカメラ用OneLINK Bridge：すべてのVaddio HDBaseT カメラおよびCisco C20、C40、C60、SX20、SX80 コーデックと互換性があります。

Vaddio HDBaseT カメラとPolycomコーデック の接続

以下の図では、OneLINK Bridgeはネットワーク接続、電源、および制御をRoboSHOT 12 HDBT カメラに延長し、カメラ映像をHDMIビデオでPolycomコーデックに接続します。OneLINK Bridge はオーディオ接続も提供し、USBストリームを使ってUSBインターフェースを持たない機器をUSBベースの会議アプリケーションにブリッジできます。

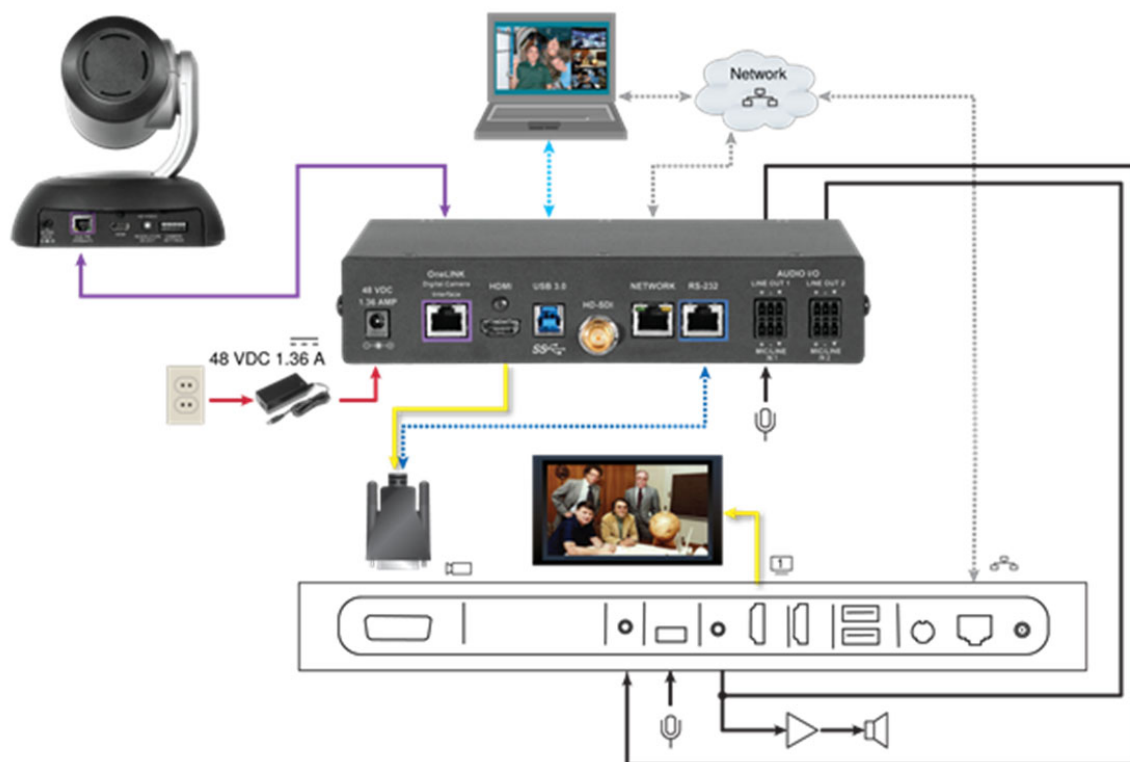
他のVaddio HDBaseT カメラもまったく同じ方法で接続できます。

図中の機材：

- OneLINK Bridge AVインターフェース
- 電源アダプター、AC電源コード
- ファンアウトケーブル(コーデック側)
- RoboSHOT 12 HDBT カメラ(別売)
- Polycom RealPresence グループシリーズコーデック(別売)
- HDMIディスプレイおよびHDMIケーブル(別売)
- 会議アプリケーション搭載ラップトップPC(別売)
- OneLINKおよびネットワーク接続用のCat-5eケーブル(別売)

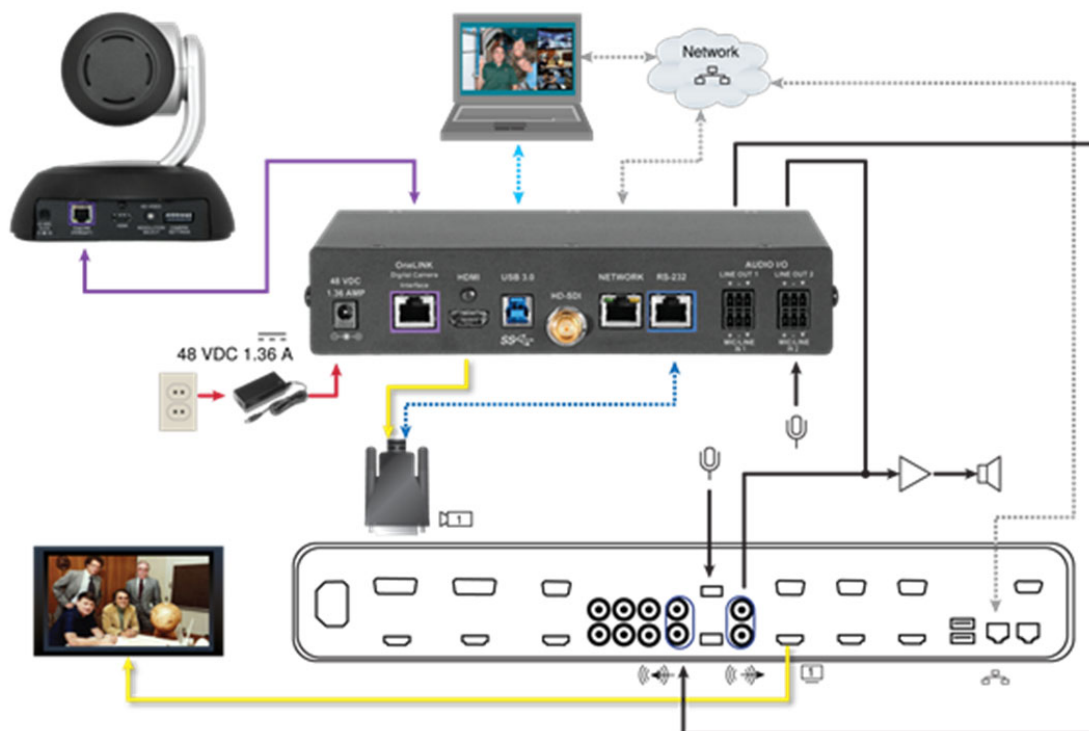
RoboSHOT HDBT カメラおよびPolycom RealPresence Group 310 コーデック

Group 500 コーデックも同様に接続します。他のVaddio HDBaseT カメラも同様に接続します。



RoboSHOT HDBT カメラおよびPolycom RealPresence Group 700 コーデック

他のVaddio HDBaseT カメラも同様に接続します。



ハードウェアに関する注記: IR 転送

OneLINK Bridge はIR転送をサポートしていません。

ハードウェアに関する注記: 接続と設定の変更

機器を接続または設定したら、OneLINK Bridge、カメラ、およびコーデックを再起動します。OneLINK Bridgeのみを再起動しても、カメラとコーデックには影響しませんので、個別に再起動する必要があります。

Vaddio HDBaseT カメラとCiscoコーデック の接続

以下の図では、OneLINK Bridge はネットワーク接続、電源、および制御をRoboSHOT 12 HDBT カメラに延長し、カメラ映像をHDMIビデオでCiscoコーデックに接続します。OneLINK Bridge はオーディオ接続も提供し、USBストリームを使ってUSBインターフェースを持たない機器をUSBベースの会議アプリケーションにブリッジできます。

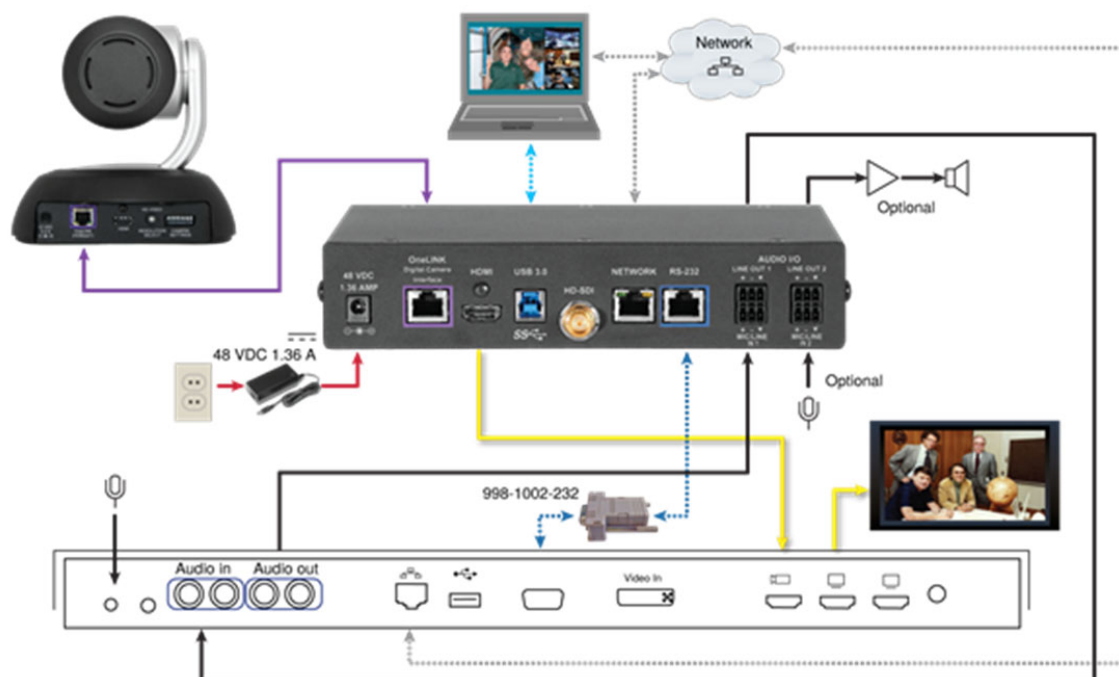
他のVaddio HDBaseT カメラも全く同じ方法で接続できます。

図中の機材:

- OneLINK Bridge AVインターフェース
- 電源アダプター、AC電源コード
- RS-232 アダプター (C20、C60、およびSX80コーデックの標準Cat-5ケーブルで使用)
- CiscoスプリットケーブルCAB-PHD4XS2-SPLIT(別売、SX20コーデックに必要)
- ヌルモデムケーブル(コーデック側、SX20コーデックのスプリットケーブルで使用)
- RoboSHOT 12 HDBT カメラ(別売)
- Ciscoコーデック(別売)
- HDMIディスプレイおよびHDMIケーブル(別売)
- 会議アプリケーション搭載ラップトップPC(別売)
- OneLINKおよびネットワーク接続用のCat-5eケーブル(別売)

RoboSHOT HDBT カメラおよびCisco C20 コーデック

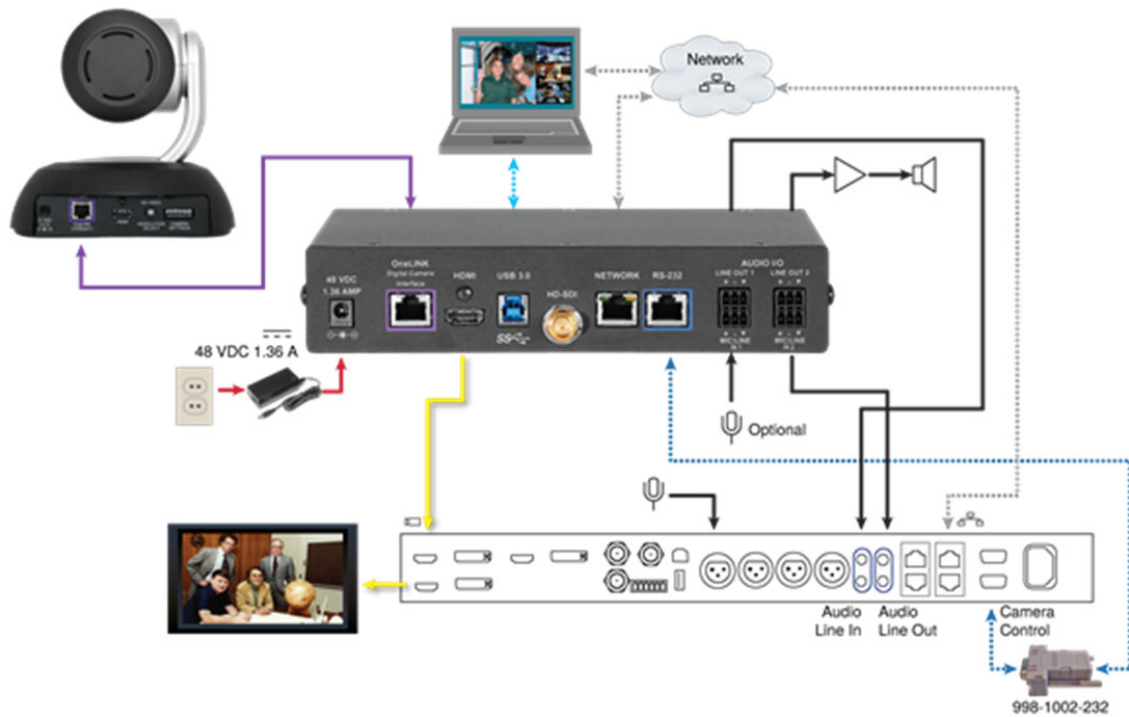
他のVaddio HDBaseT カメラも同様に接続します。



Roboshot HD BT カメラとCisco C60コーデック

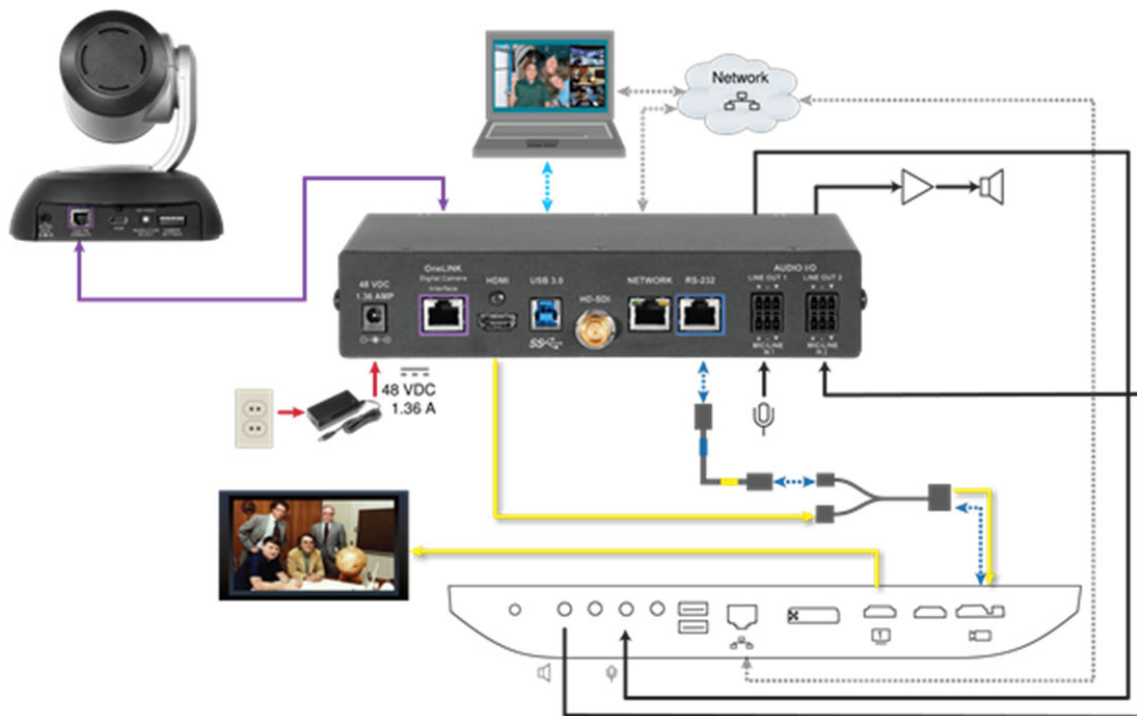
The C40コーデックも同様に接続できます。

他のVaddio HDBaseT カメラも同様に接続します。



RoboSHOT HDBT カメラおよびCisco SX20 コーデック

他のVaddio HDBaseT カメラも同様に接続します。

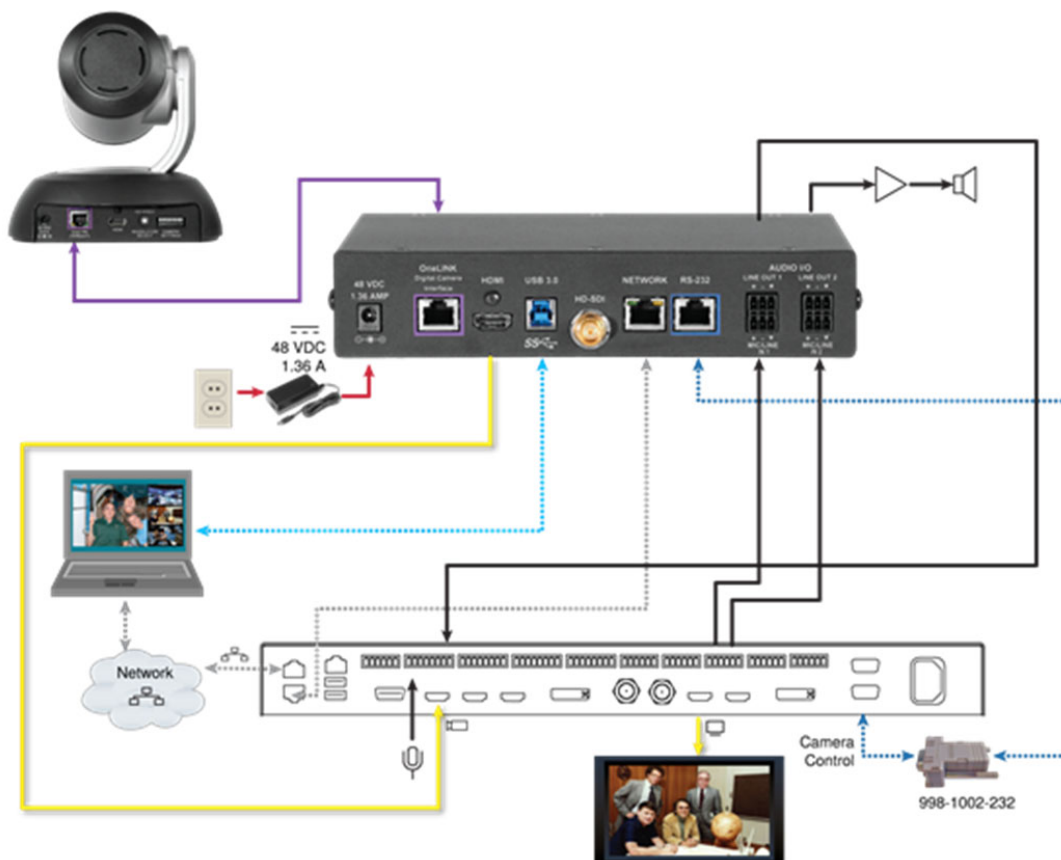


注意

Cisco SX20 コーデックに接続する場合は、Ciscoスプリットケーブル(CABPHD4XS2-SPLIT)を別途用意する必要があります。

RoboSHOT HDBT カメラおよびCisco SX80 コーデック

他のVaddio HDBaseT カメラも同様に接続します。



ハードウェアに関する注記: RS-232接続

Dsub-9 コネクターを使用したCiscoコーデックへのRS-232接続には、別売りのRJ-45/Dsub-9変換アダプター (998-1002-232)を使用します。多くのVaddio製品に同梱されている変換アダプターとは配線が異なります。Ciscoスプリットケーブルを使用したCiscoコーデックへのRS-232 接続には、スプリットケーブルのRJ-45側に適切なヌルモデムケーブルを使用します。ケーブルのラベルに示されているように、ヌルモデムケーブルを接続します。

ハードウェアに関する注記: 接続と設定の変更

機器を接続または設定したら、OneLINK Bridge、カメラ、およびコーデックを再起動します。OneLINK Bridgeのみを再起動しても、カメラとコーデックには影響しませんので、個別に再起動する必要があります。

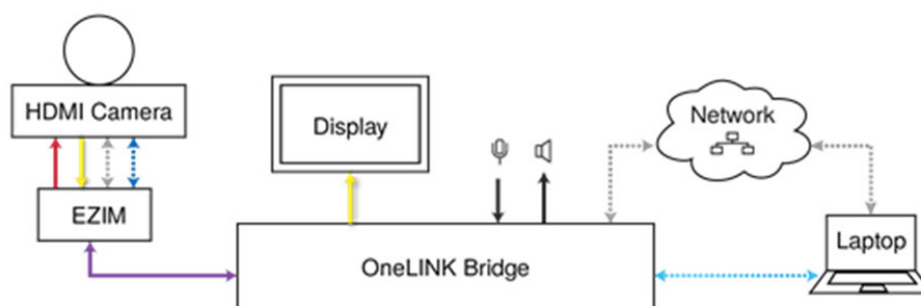
OneLINK Bridgeの設定

インストールが完了してOneLINK Bridgeとカメラが動作可能になった後、上図に示すようにオーディオ接続を行った場合は、AEC(エコーキャンセラー)のリファレンスを変更する必要があります。スピーカー接続にLine Out 2を使用する場合は、Master Output/AEC Reference をOutput2 に設定します。「オーディオフィードバックの防止」を参照してください。

HDMI カメラの接続

この構成では、OneLINK Bridge はEZIMユニットを介してネットワーク接続、電源、および制御をHDMIカメラに延長し、カメラ映像をHDMIビデオでディスプレイに出力します。カメラはOneLINK Bridge へのRS-232 シリアル接続またはネットワーク経由で、カメラコントローラーによってPTZ制御できます。OneLINK Bridge は、マイクとスピーカーへの接続も提供し、USBストリーミングを使用して、USBインターフェースを持たないカメラやオーディオ機器をUSBベースの会議アプリケーションにブリッジできます。

またカメラにIPストリーミング機能がある場合、OneLINK Bridgeはネットワークにもブリッジできます。この場合最大2160p/30HzのIPストリーミング解像度をサポートしています。HDMI出力解像度とストリーミングパラメーター(解像度を含む)は、OneLINK Bridgeではなくカメラ側で設定します。



HDMI カメラ用キット

上のブロック図は以下のキットに適用しています:

- Polycomコーデックで使用するPolycomカメラ用OneLINK Bridge AVインターフェース : Polycom EagleEye IV カメラと互換性があります。(ブロック図はコーデックなしで使用する場合の構成)
- ソニー/パナソニックカメラ用OneLINK BridgeAVインターフェース : パナソニックHEシリーズ、ソニーEVI-Dシリーズ、ソニーBRC-Hシリーズに対応
- Ciscoコーデックで使用するCiscoカメラ用のOneLINK Bridge AVインターフェース : Cisco Precision シリーズカメラと互換性があります。(ブロック図はコーデックなしで使用する場合の構成)
- RoboSHOT HDMIカメラ用OneLINK Bridge AVインターフェース (カメラは生産完了)

RoboSHOT HDMIカメラを接続する

この図では、OneLINK Bridge はEZIMユニットを介してネットワーク接続、電源、および制御をRoboSHOT HDMIカメラに延長し、カメラ映像を接続されたHDMIディスプレイに表示します。OneLINK Bridge はオーディオ接続も提供し、USBストリームを使用してUSBインターフェースを持たない機器をUSBベースの会議アプリケーションにブリッジできます。

図中の機材：

- OneLINK Bridge AVインターフェースとOneLINK EZIMユニット
- 電源アダプターとAC電源コード
- RoboSHOT 12 HDMIカメラ(別売)
- OneLINK EZIMからカメラまでの電源ケーブル、HDMIケーブル、Cat-5eケーブル
- HDMIディスプレイおよびHDMIケーブル(別売)
- 会議アプリケーション搭載ラップトップPC(別売)
- OneLINKおよびネットワーク接続用のCat-5eケーブル(別売)

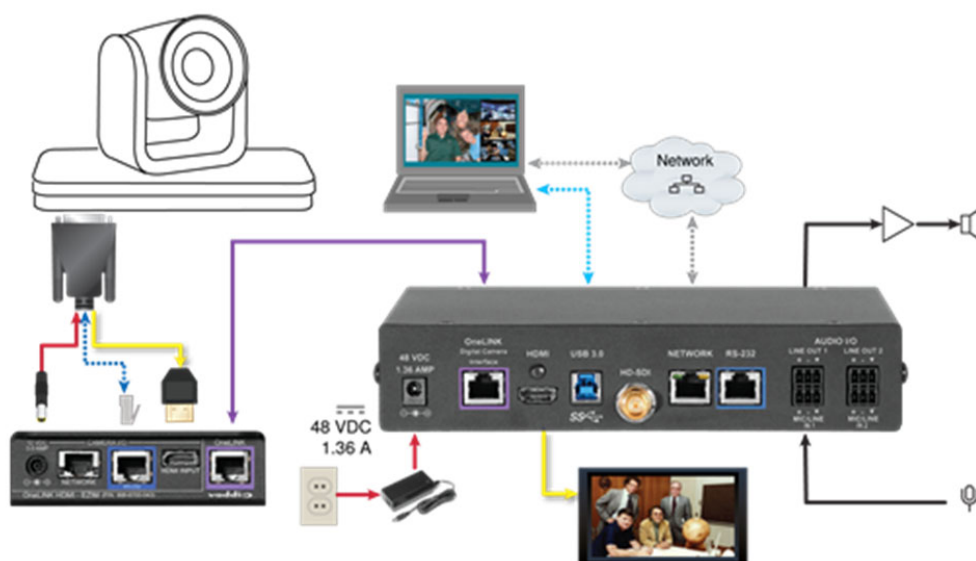


Polycom EagleEye IV カメラの接続

この図では、OneLINK Bridge はEZIMユニットを介してネットワーク接続、電源、および制御をPolycom EagleEye IV カメラに延長し、カメラ映像をHDMIビデオでディスプレイに表示します。OneLINK Bridge はオーディオ接続も提供し、USBストリームを使用してUSBインターフェースを持たない機器をUSBベースの会議アプリケーションにブリッジできます。

図中の機材:

- OneLINK Bridge AVインターフェースとOneLINK EZIMユニット
- 電源アダプター、AC電源コード
- ファンアウトケーブル(カメラ側)
- Polycom EagleEye IV カメラ(別売)
- HDMI ディスプレイとケーブル(別売)
- 会議アプリケーション搭載ラップトップPC(別売)
- OneLINKおよびネットワーク接続用のCat-5eケーブル(別売)



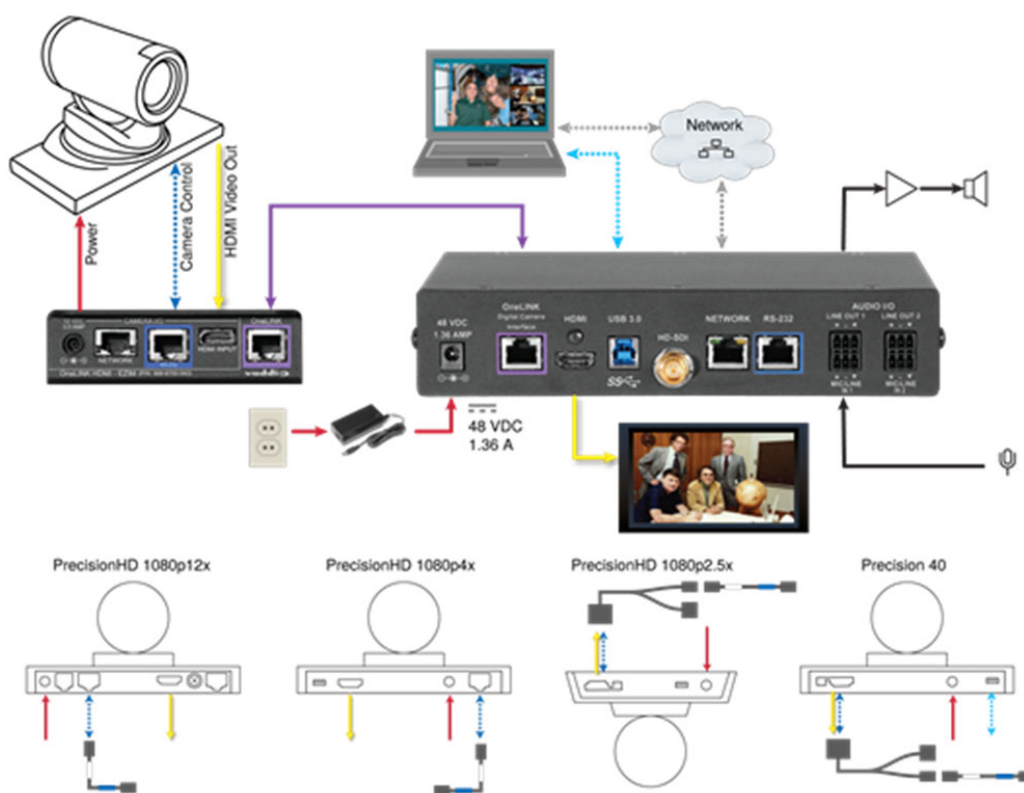
Cisco カメラの接続

この図では、OneLINK Bridge はEZIMユニットを介して電源と制御をCiscoカメラに延長し、カメラ映像をHDMIビデオでディスプレイに表示します。OneLINK Bridge はオーディオ接続も提供し、USBストリームを使用してUSBインターフェースを持たない機器をUSBベースの会議アプリケーションにブリッジできます。

図中の機材：

- OneLINK BridgeAVインターフェースとOneLINK EZIMユニット
- カメラ側ファンアウトケーブル(別売： Precision 40 およびPrecision HD 1080p2.5x で使用)
- Ciscoカメラ(別売)
- HDMIディスプレイおよびHDMIケーブル(別売)
- 会議アプリケーション搭載ラップトップPC(別売)
- OneLINKおよびネットワーク接続用のCat-5eケーブル(別売)

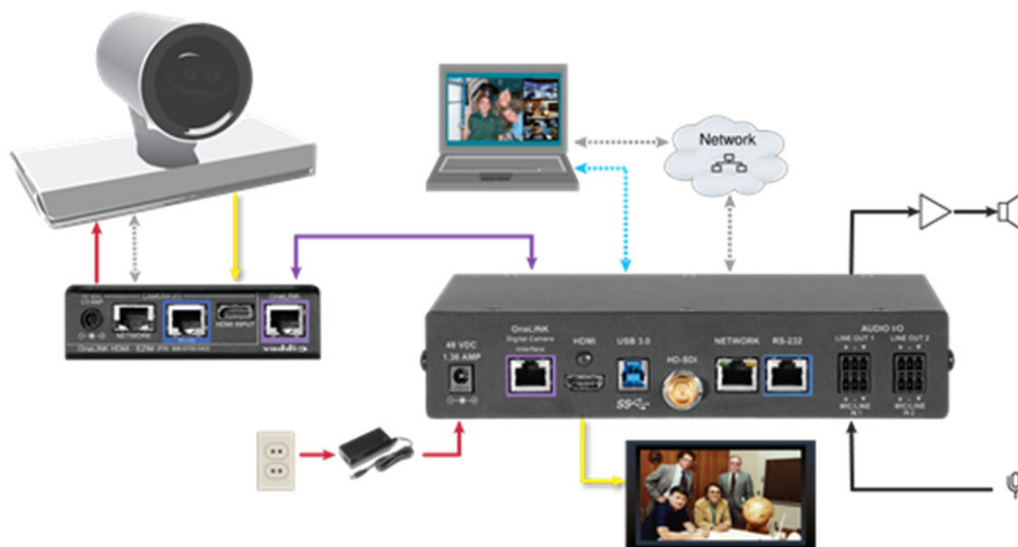
Cisco Precision 40 またはPrecision HD シリーズカメラ



注意

Cisco Precision 40 または Precision HD 1080p2.5x カメラに接続する場合は、Cisco スプリットケーブル(CAB-PHD4XS2-SPLIT)を別途用意する必要があります。

Cisco Precision 60 カメラ



ハードウェアに関する注記: RS-232 接続

CiscoカメラへのRS-232接続には、適切なヌルモデムケーブルを使用して下さい。ケーブルのラベルに示されているとおりに接続します。このケーブルは、一部のカメラ用のCiscoスプリットケーブル(CAB-PHD4XS2-SPLIT)と一緒に使用します。

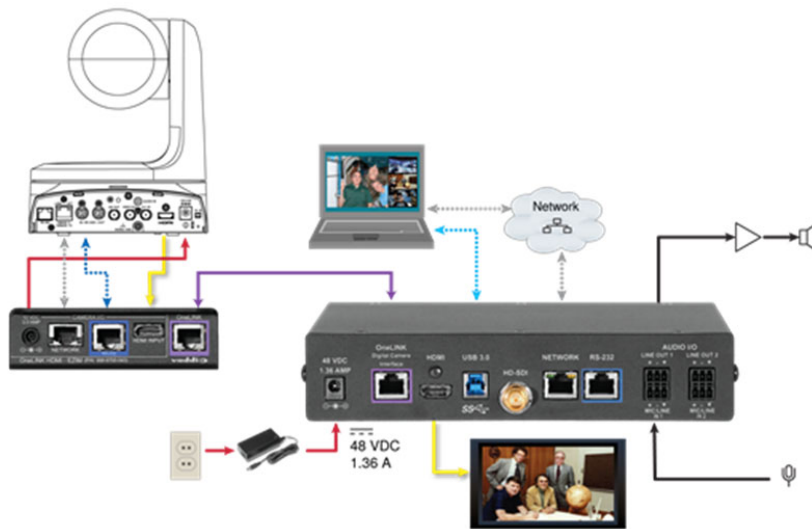
ソニーまたはパナソニックHDMIカメラを接続する

この図では、OneLINK BridgeはEZIMユニットを介して電源とコントロールをソニーまたはパナソニックのHDMIカメラに延長し、カメラ映像をHDMIビデオでディスプレイに表示します。OneLINK Bridge はオーディオ接続も提供し、USBストリームを使用してUSBインターフェースを持たない機器をUSBベースの会議アプリケーションにブリッジできます。

図中の機材:

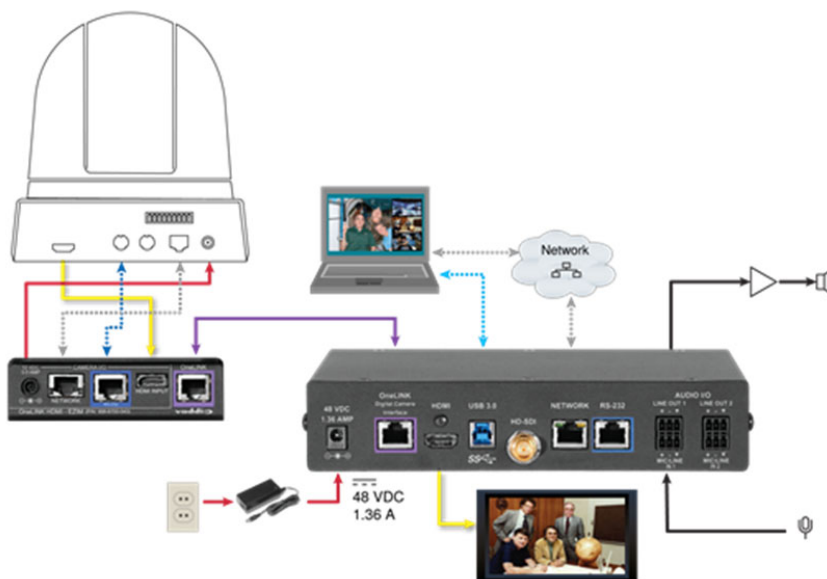
- OneLINK Bridge AVインターフェースとOneLINK EZIMユニット
- 電源アダプター、AC電源コード
- ケーブル付きカメラ(別売)
- HDMI ディスプレイとケーブル(別売)
- 会議アプリケーション搭載ラップトップPC(別売)

パナソニックAW-HE130カメラ



ソニーSRG300カメラ

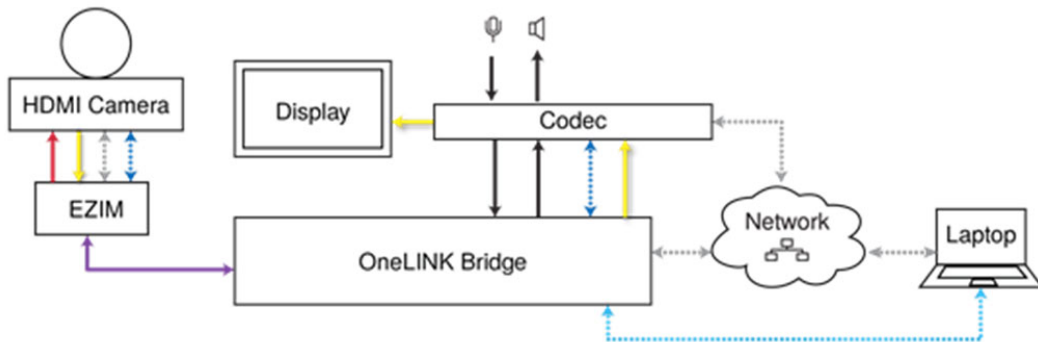
SRG120カメラも背面パネルがよく似ており、同様に接続できます。



サードパーティ製コーデックで使用するHDMIカメラの接続

この構成では、OneLINK Bridge はEZIMユニットを介してネットワーク接続、電源、および制御をHDMIカメラに延長し、カメラ映像をHDMIでコーデックに接続します。使用するコーデックに応じて、OneLINK BridgeにRS-232またはIPネットワーク経由で接続し通信することもできます。OneLINK Bridge は、カメラ、コーデック、およびコーデックに接続されたオーディオ機器をUSBベースの会議アプリケーションにブリッジするUSBストリームを作成できます。

カメラにIPストリーミング機能がある場合、OneLINK BridgeはIPストリーミングをネットワークにブリッジします。最大2160p/30のIPストリーミング解像度をサポートしています。HDMI出力解像度とストリーミングパラメータ(解像度を含む)は、OneLINK Bridgeではなくカメラ側で設定します。



サードパーティ製コーデックで使用するHDMI カメラ用キット

このブロック図は以下に適用されます：

- Polycomコーデックで使用するPolycomカメラ用OneLINK Bridge: Polycom EagleEye IV カメラおよびPolycom RealPresence Group シリーズコーデックと互換性があります。
- Polycomコーデックで使用するRoboSHOT HDMIカメラ用OneLINK Bridge: RoboSHOT HDMI カメラおよびPolycom RealPresence Group シリーズコーデックと互換性があります。
- Ciscoコーデックで使用するCiscoカメラ用OneLINK Bridge: Cisco Precision シリーズカメラおよびCisco C20、C40、C60、SX20、SX80 コーデックと互換性があります。
- Ciscoコーデックで使用するRoboSHOT HDMIカメラ用OneLINK Bridge: RoboSHOT HDMI カメラおよびCisco C20、C40、C60、SX20、SX80 コーデックと互換性があります。

RoboSHOT HDMI カメラとPolycomコーデックの接続

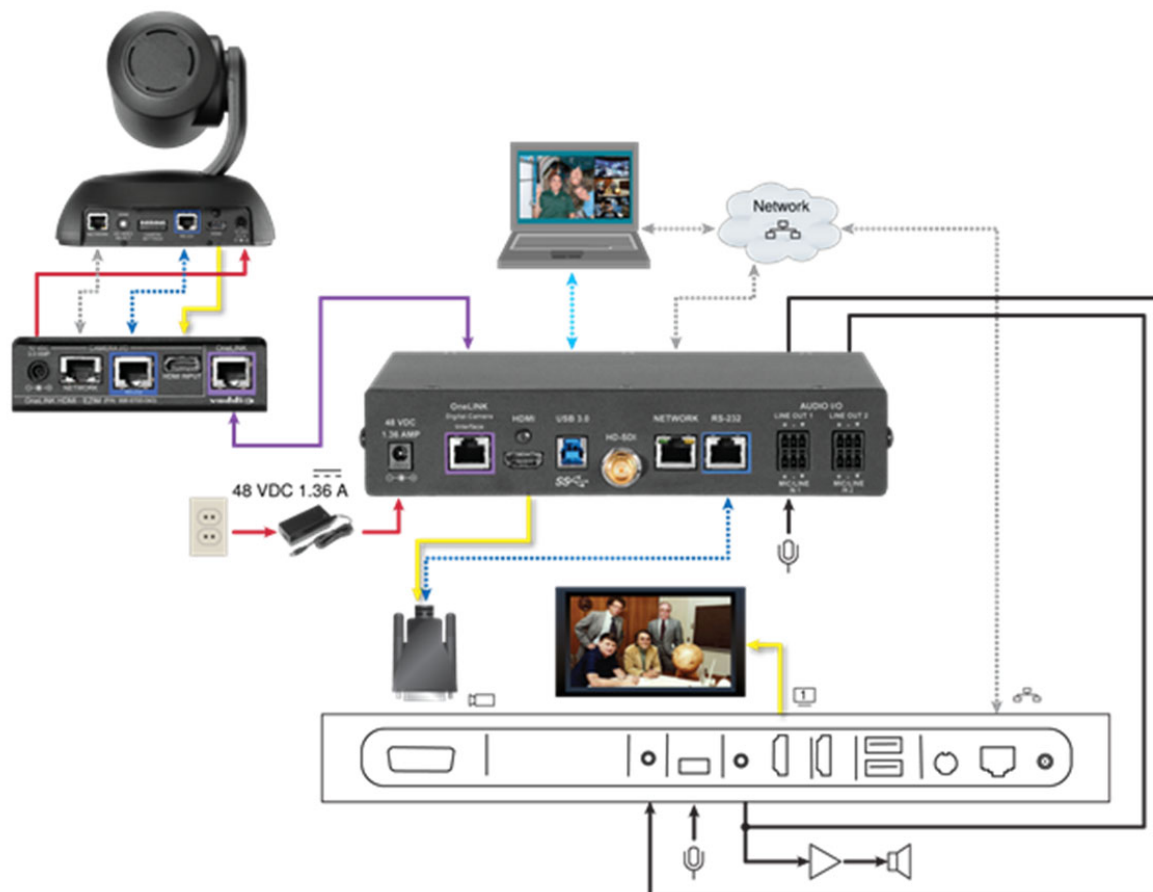
この図では、OneLINK Bridge はEZIMユニットを介してネットワーク接続、電源、および制御をRoboSHOT 12 または30 HDMIカメラに延長し、カメラ映像をHDMIビデオでPolycomコーデックに接続します。OneLINK Bridge はオーディオ接続も提供し、USBストリームを使用してUSBインターフェースを持たない機器をUSBベースの会議アプリケーションにブリッジできます。

図中の機材:

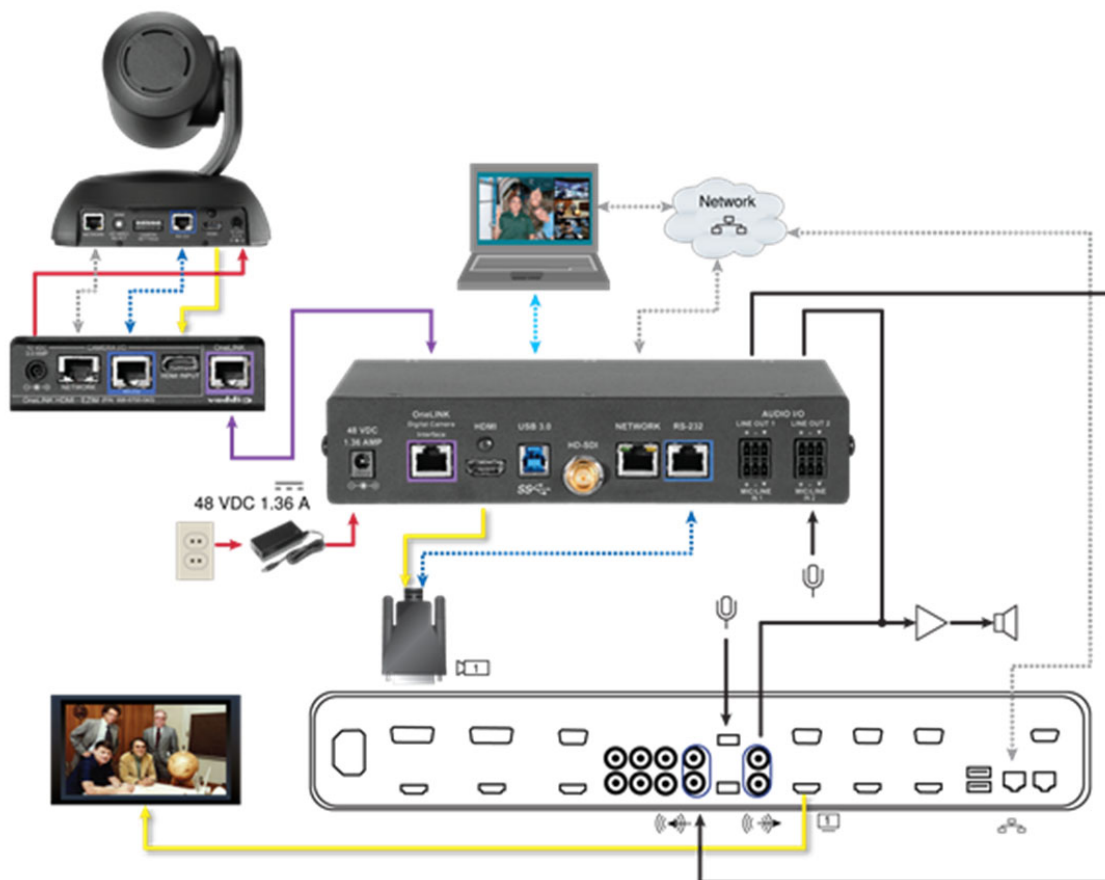
- OneLINK Bridge AVインターフェースとOneLINK EZIMユニット
- AC電源コード付電源アダプター
- RoboSHOT 12 HDMIカメラ(別売)
- Polycom RealPresence グループシリーズコーデック(別売)
- コーデック側ファンアウトケーブル
- HDMIディスプレイおよびHDMIケーブル(別売)
- 会議アプリケーション搭載ラップトップPC(別売)
- OneLINKおよびネットワーク接続用のCat-5eケーブル(別売)

RoboSHOT HDMI カメラおよびPolycom RealPresence Group 310 コーデック

Group 500 コーデックも同様に接続します。



RoboSHOT HDMI カメラおよびPolycom RealPresence Group 700 コーデック



ハードウェアに関する注記: IR 転送

OneLINK Bridge はIR 転送をサポートしていません。

ハードウェアに関する注記: 接続と設定の変更

機器を接続または設定したら、OneLINK Bridge、カメラ、およびコーデックを再起動します。OneLINK Bridgeのみを再起動してもカメラとコーデックには影響しませんので、個別に再起動する必要があります。

Polycom EagleEye IV カメラとPolycomコーデックの接続

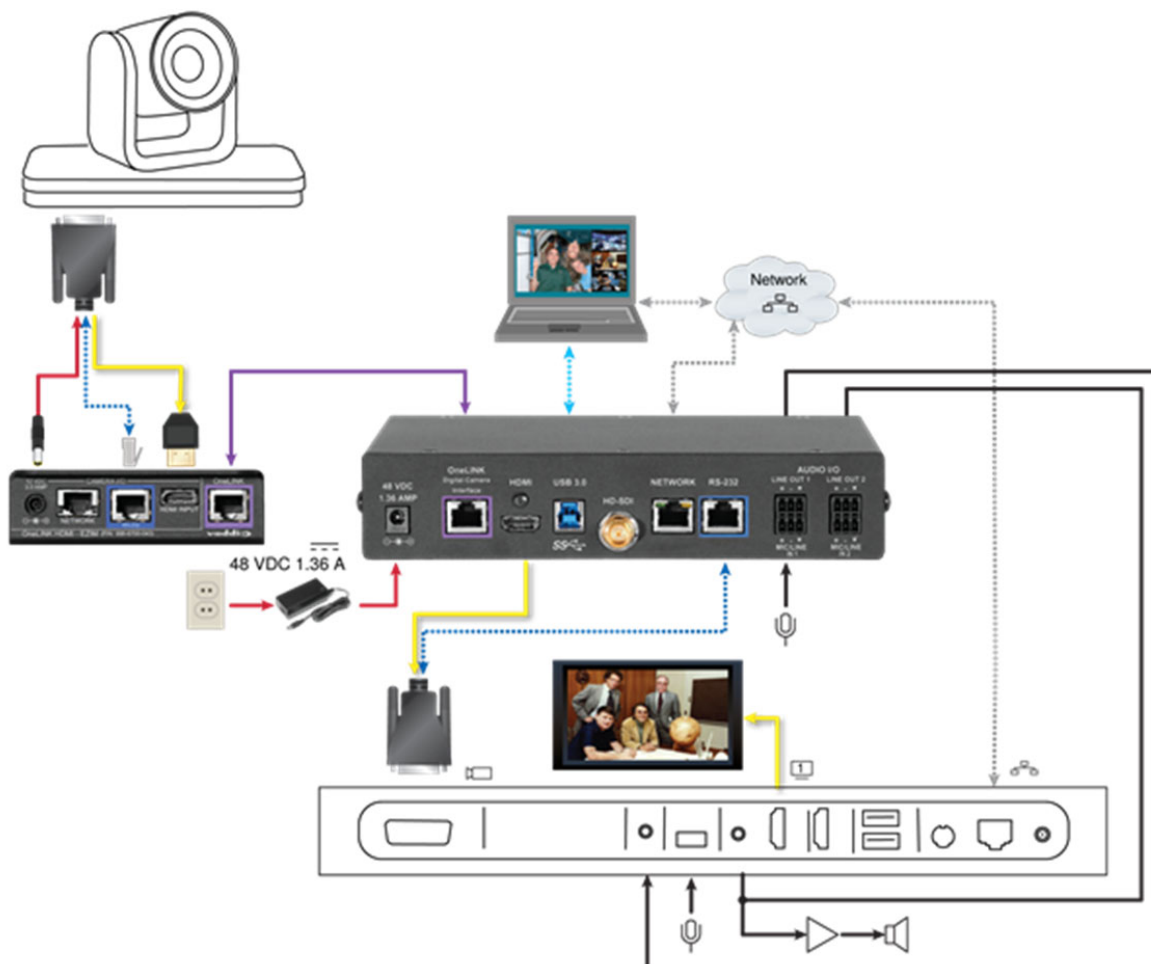
以下の図では、OneLINK Bridge はEZIMユニットを介して電源、および制御をPolycom EagleEye IV カメラに延長し、カメラ映像をHDMIビデオでPolycomコーデックに接続します。OneLINK Bridge はオーディオ接続も提供し、USBストリームを使用してUSBインターフェースを持たない機器をUSBベースの会議アプリケーションにブリッジできます。

図中の機材:

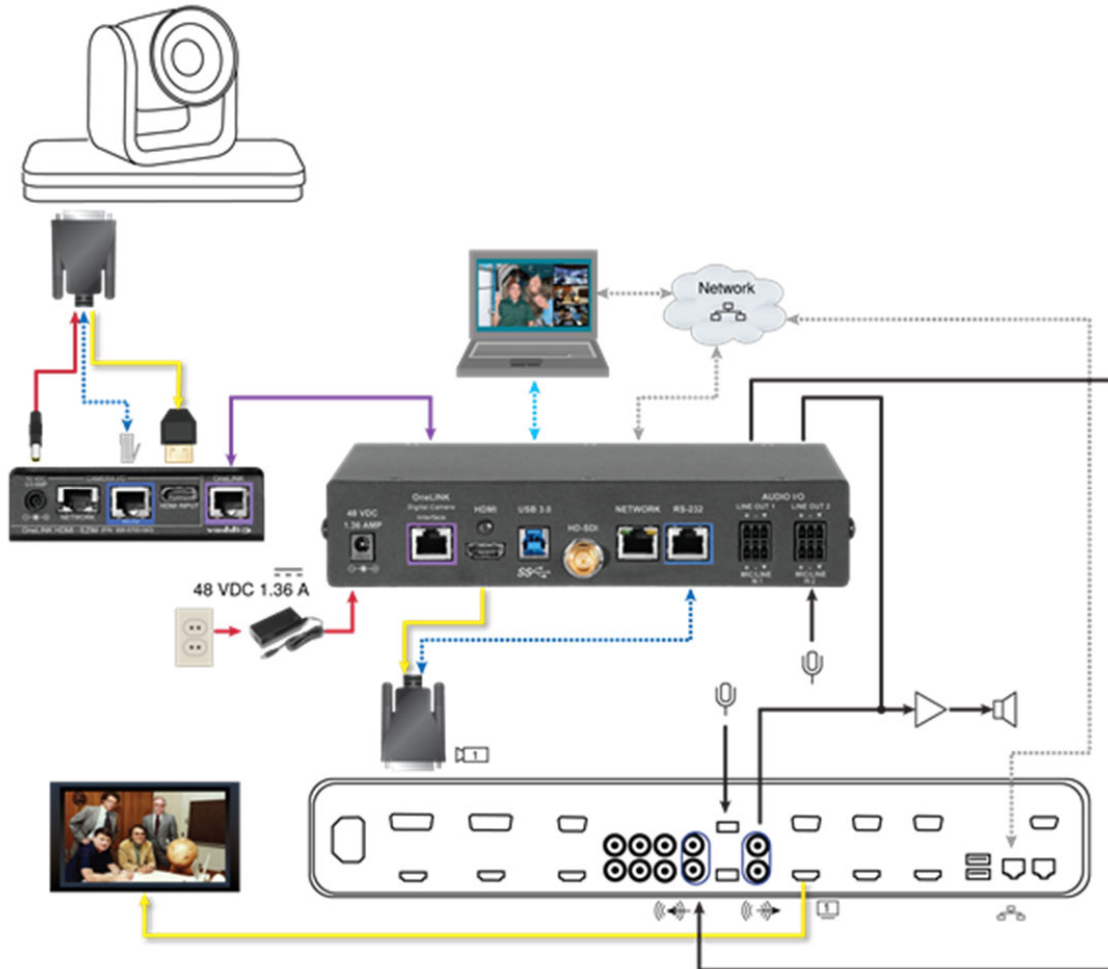
- OneLINK Bridge AVインターフェースとOneLINK EZIMユニット
- AC電源コード付電源アダプター
- Polycom EagleEye IV カメラ(別売)
- Polycom RealPresence グループシリーズコーデック(別売)
- ファンアウトケーブル(コーデック側)
- HDMIディスプレイおよびHDMIケーブル(別売)
- 会議アプリケーション搭載ラップトップPC(別売)
- OneLINKおよびネットワーク接続用のCat-5eケーブル(別売)

Polycom EagleEye IV カメラおよびPolycom RealPresence Group 310 コーデック

Group 500 コーデックも同様に接続します。



Polycom EagleEye IV カメラおよびPolycom RealPresence Group 700 コーデック



ハードウェアに関する注記: IR 転送

OneLINK Bridge はIR 転送をサポートしていません。

ハードウェアに関する注記: 接続と設定の変更

機器を接続または設定したら、OneLINK Bridge、カメラ、およびコーデックを再起動します。OneLINK Bridgeのみを再起動してもカメラとコーデックには影響しませんので、個別に再起動する必要があります。

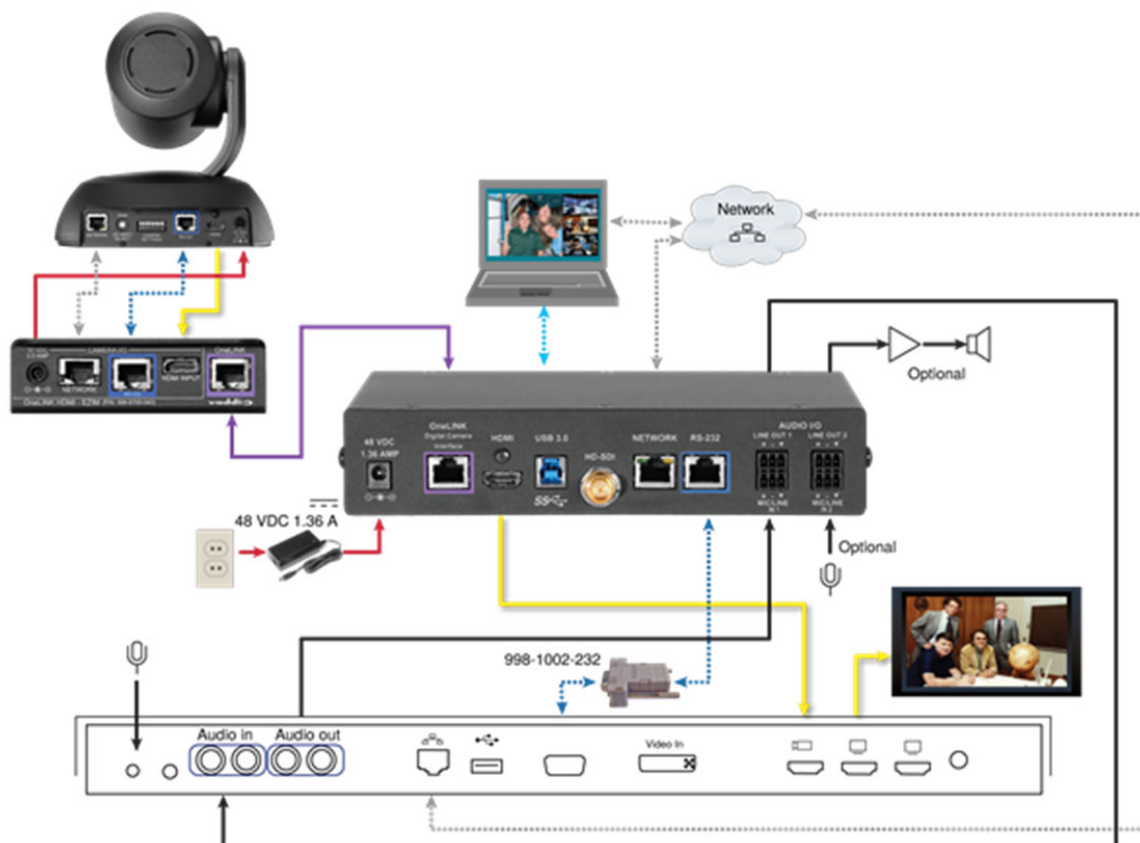
RoboSHOT HDMI カメラとCiscoコーデックの接続

以下の図では、OneLINK Bridge はEZIMユニットを介してネットワーク接続、電源、および制御をRoboSHOT 12 または30 HDMI カメラに延長し、カメラ映像をHDMIビデオでCiscoコーデックに接続します。OneLINK Bridge はオーディオ接続も提供し、USBストリームを使用してUSBインターフェースを持たない機器をUSBベースの会議アプリケーションにブリッジできます。

図中の機材:

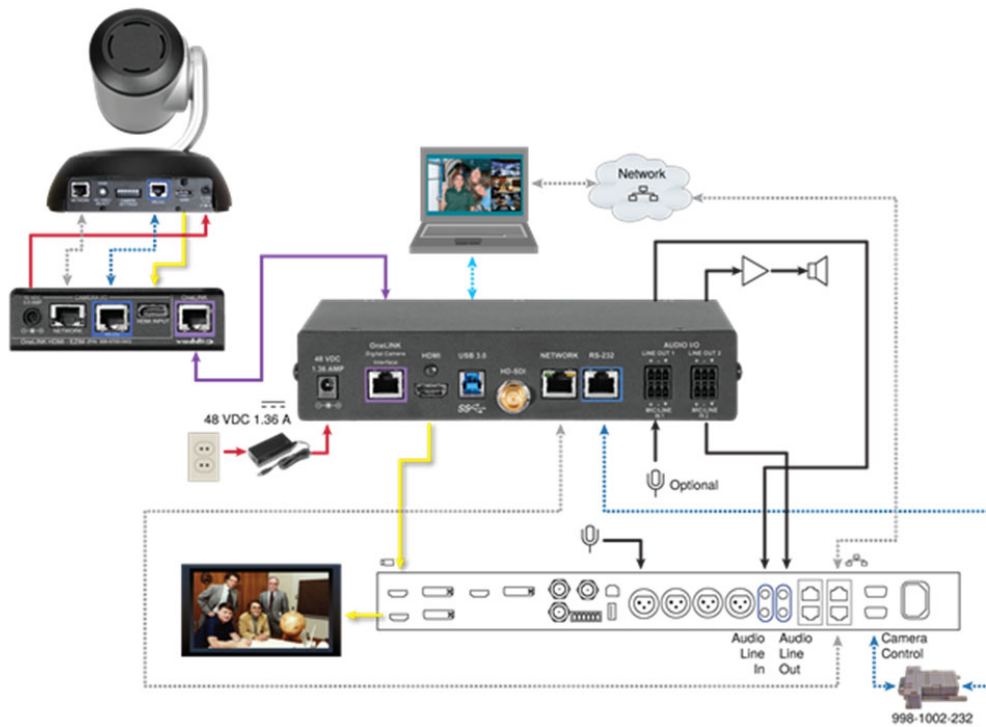
- OneLINK Bridge AVインターフェースとOneLINK EZIMユニット
- 電源アダプター、AC電源コード
- RS-232 アダプター(C20、C60、およびSX80コーデックの標準Cat-5ケーブルで使用)
- CiscoスプリットケーブルCAB-PHD4XS2-SPLIT (別売、SX20 コーデックに必要)
- コーデック側ヌルモデムケーブル(SX20コーデックのスプリットケーブルで使用)
- RoboSHOT 12 HDMIカメラ(別売)
- Ciscoコーデック(別売)
- HDMIディスプレイおよびHDMIケーブル(別売)
- 会議アプリケーション搭載ラップトップPC(別売)
- OneLINKおよびネットワーク接続用のCat-5eケーブル(別売)

RoboSHOT HDMI カメラおよびCisco C20 コーデック

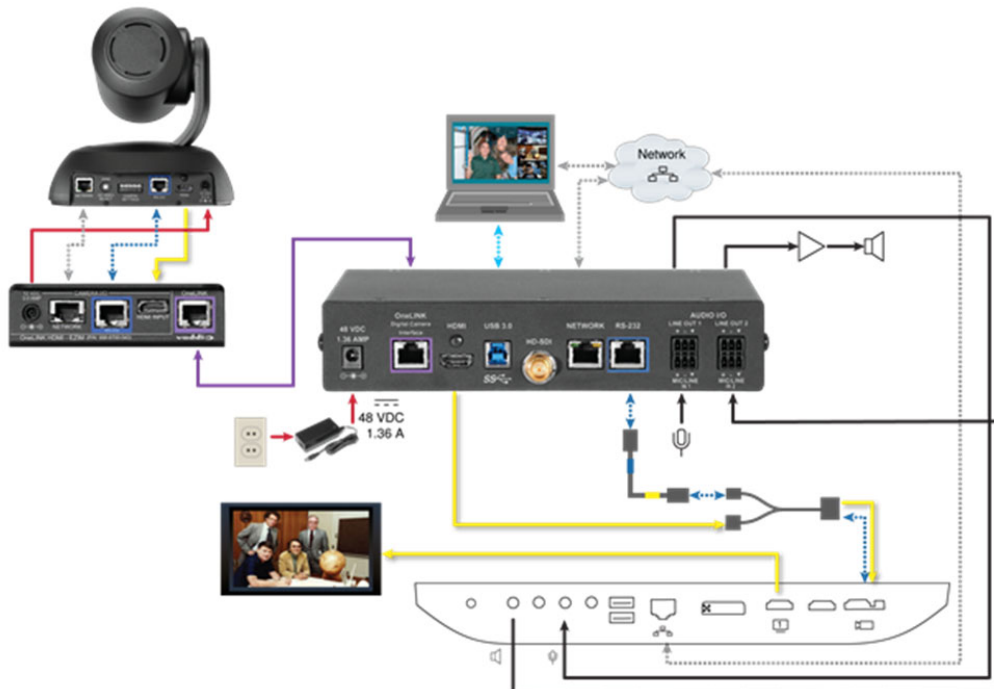


RoboSHOT HDMI カメラおよびCisco C60 コーデック

C40 コーデックも同様に接続します。



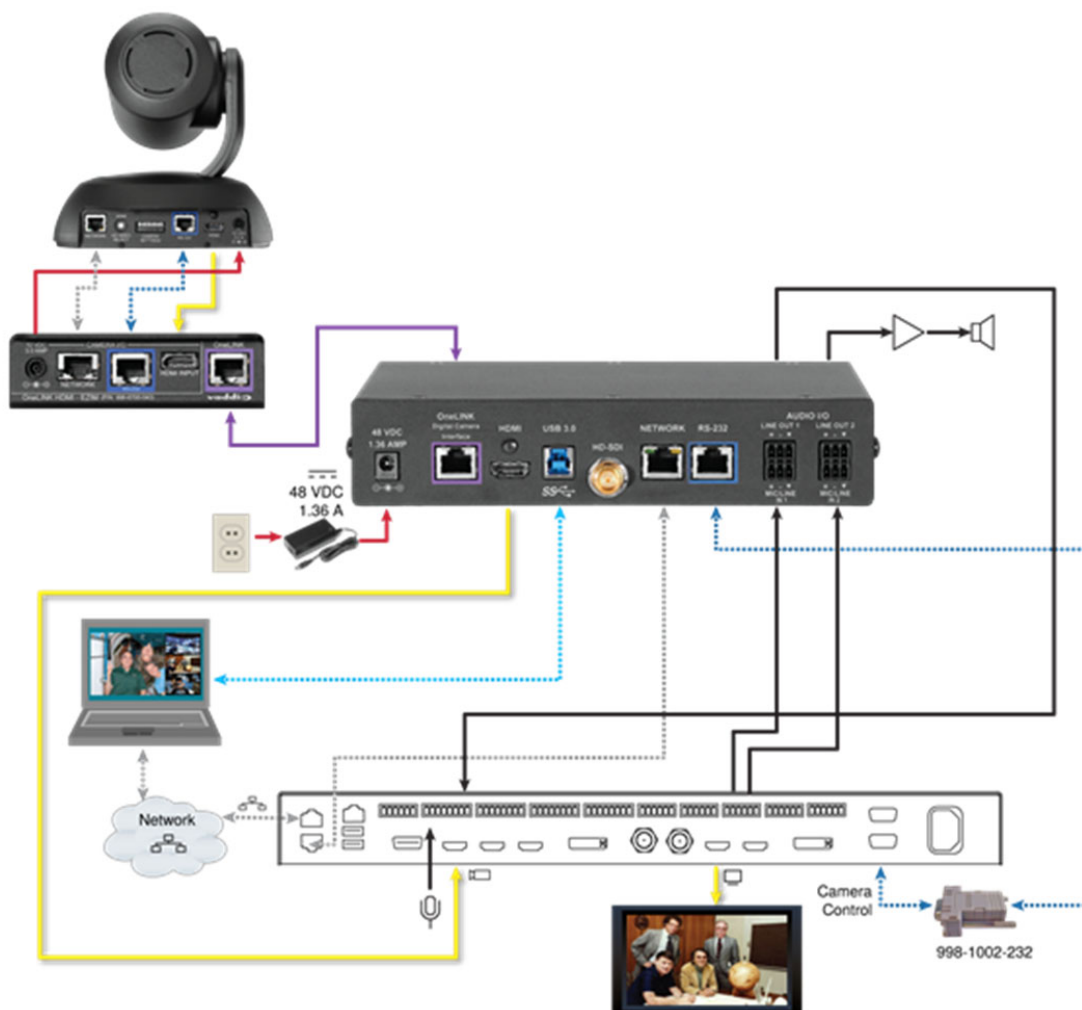
RoboSHOT HDMI カメラおよびCisco SX20 コーデック



注意

Cisco SX20 コーデックに接続する場合は、Cisco製スプリットケーブル(CABPHD4XS2-SPLIT)を別途用意する必要があります。

RoboSHOT HDMI カメラおよびCisco SX80 コーデック



ハードウェアに関する注記: RS-232接続

Dsub-9 コネクタを使用したCiscoコーデックへのRS-232 接続には、別売りのRJ-45/Dsub-9 変換アダプターを使用します。多くのVaddio製品に同梱されているアダプターとは配線が異なります。

Ciscoスプリットケーブルを使用したCiscoコーデックへのRS-232 接続には、スプリットケーブルのRJ-45 側に適切なヌルモデムケーブルを使用します。ケーブルのラベルに記載されている通りにヌルモデムケーブルを接続します。

ハードウェアに関する注記: 接続と設定の変更

機器を接続または設定したら、OneLINK Bridge、カメラ、およびコーデックを再起動します。OneLINK Bridgeのみを再起動しても、カメラとコーデックには影響しませんので、個別に再起動する必要があります。

OneLINK Bridgeの設定

インストールが完了してOneLINK Bridgeとカメラが動作可能になった後、上図に示すようにオーディオ接続を行った場合は、AEC(エコーキャンセラー)のリファレンスを変更する必要があります。スピーカー接続にLine Out2を使用する場合は、Master Output/AEC Reference をOutput2に設定します。「オーディオフィードバックの防止」を参照してください。

Cisco カメラとコーデックの接続

以下の図では、OneLINK Bridge はEZIMユニットを介してネットワーク接続、電源、および制御をCiscoカメラに延長し、カメラ映像をHDMIビデオでCiscoコーデックに接続します。OneLINK Bridge はオーディオ接続も提供し、USBストリームを使用してUSBインターフェースを持たない機器をUSBベースの会議アプリケーションにブリッジすることができます。

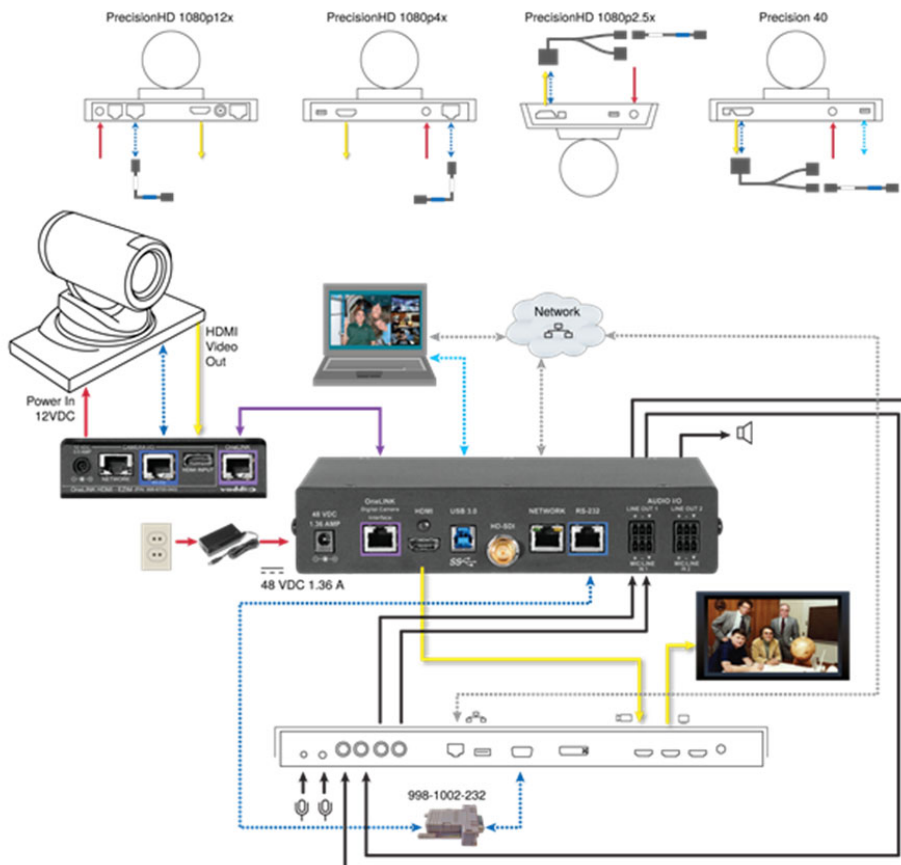
図中の機材:

- OneLINK BridgeAVインターフェースとOneLINK EZIMユニット
- Cisco スプリットケーブル CAB-PHD4XS2-SPLIT (別売: SX20 コーデック、Precision 40 および Precision HD 1080p2.5x カメラに必要)
- カメラ側のヌルモデムケーブル(サポートされているすべてのCisco製カメラで使用)
- コーデック側ヌルモデムケーブル(SX20 コーデックのCiscoスプリットケーブルで使用)
- RS-232 アダプター (C20、C60、およびSX80コーデックの標準Cat-5ケーブルで使用)
- Ciscoカメラ(別売)
- Ciscoコーデック(別売)
- HDMIディスプレイおよびHDMIケーブル(別売)
- 会議アプリケーション搭載ラップトップPC(別売)
- OneLINKおよびネットワーク接続用のCat-5eケーブル(別売)

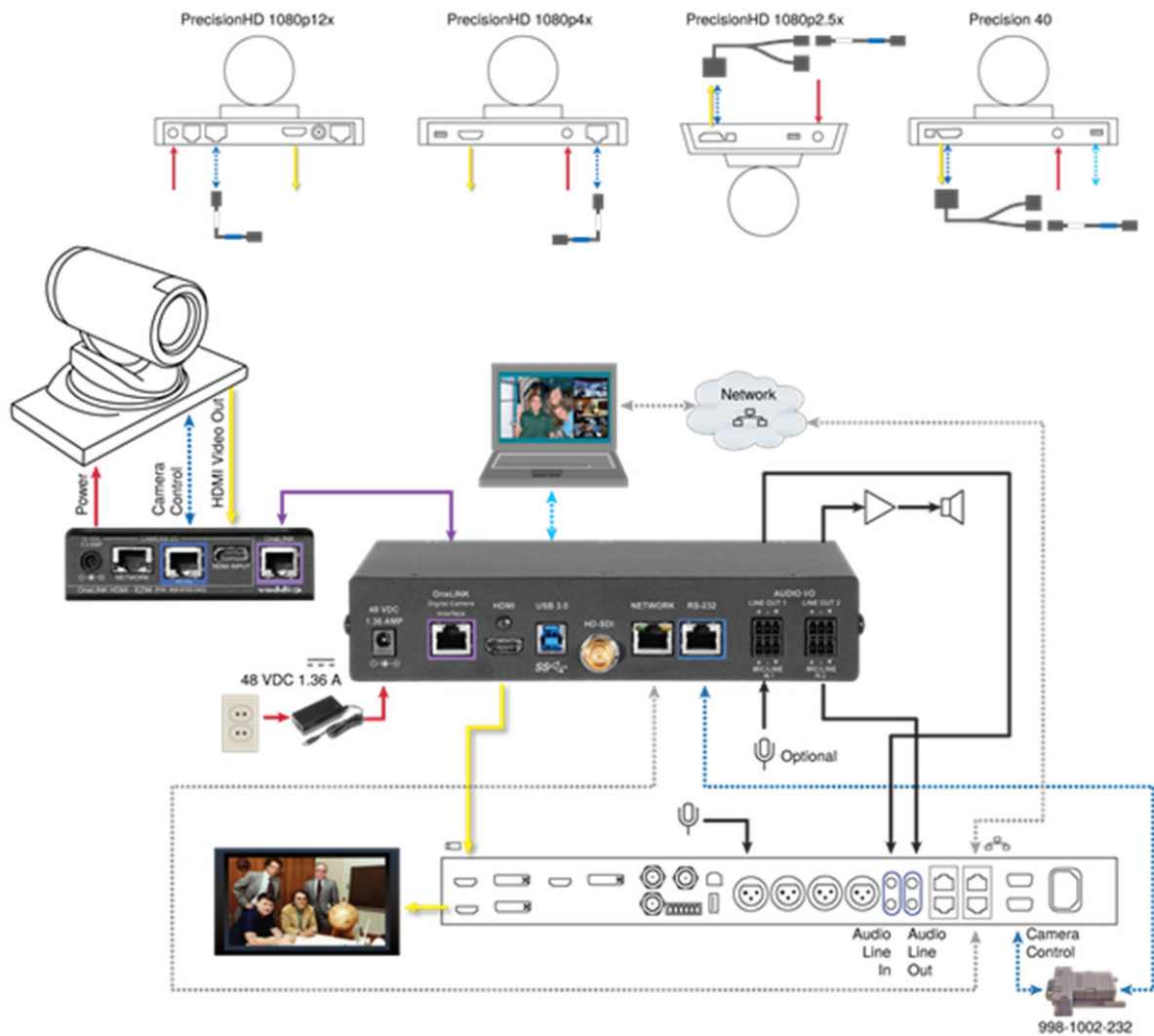
注意

Cisco SX20 コーデックに接続する場合は、Ciscoスプリットケーブル(CABPHD4XS2-SPLIT)を別途用意する必要があります。このケーブルは、Cisco Precision 40またはPrecision HD 1080p2.5xカメラに接続する場合にも必要です。これらのカメラのうちの1台とSX20コーデックを接続する場合には、そのうちの2台が必要になります。

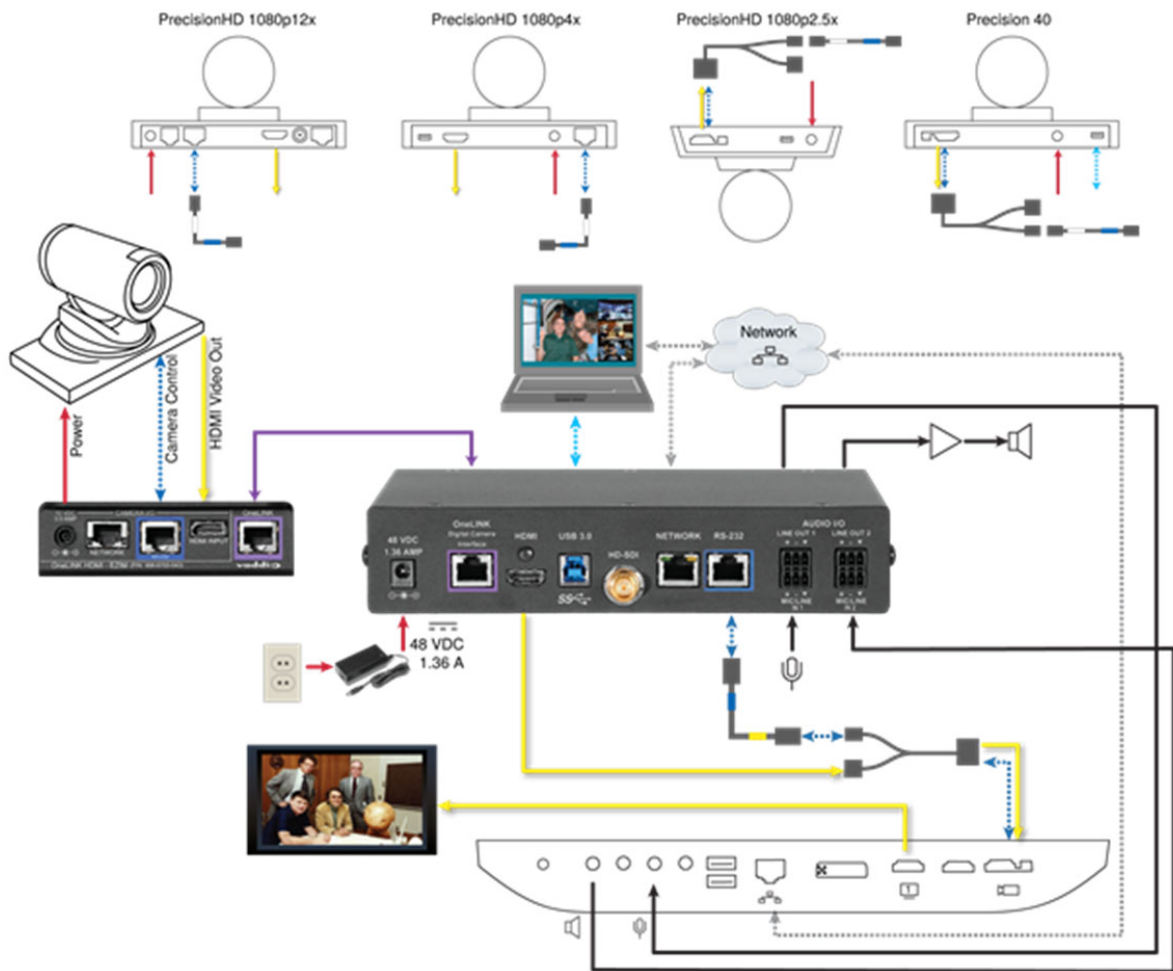
Cisco Precision 40 またはPrecision HD シリーズカメラおよびCisco C20 コーデック



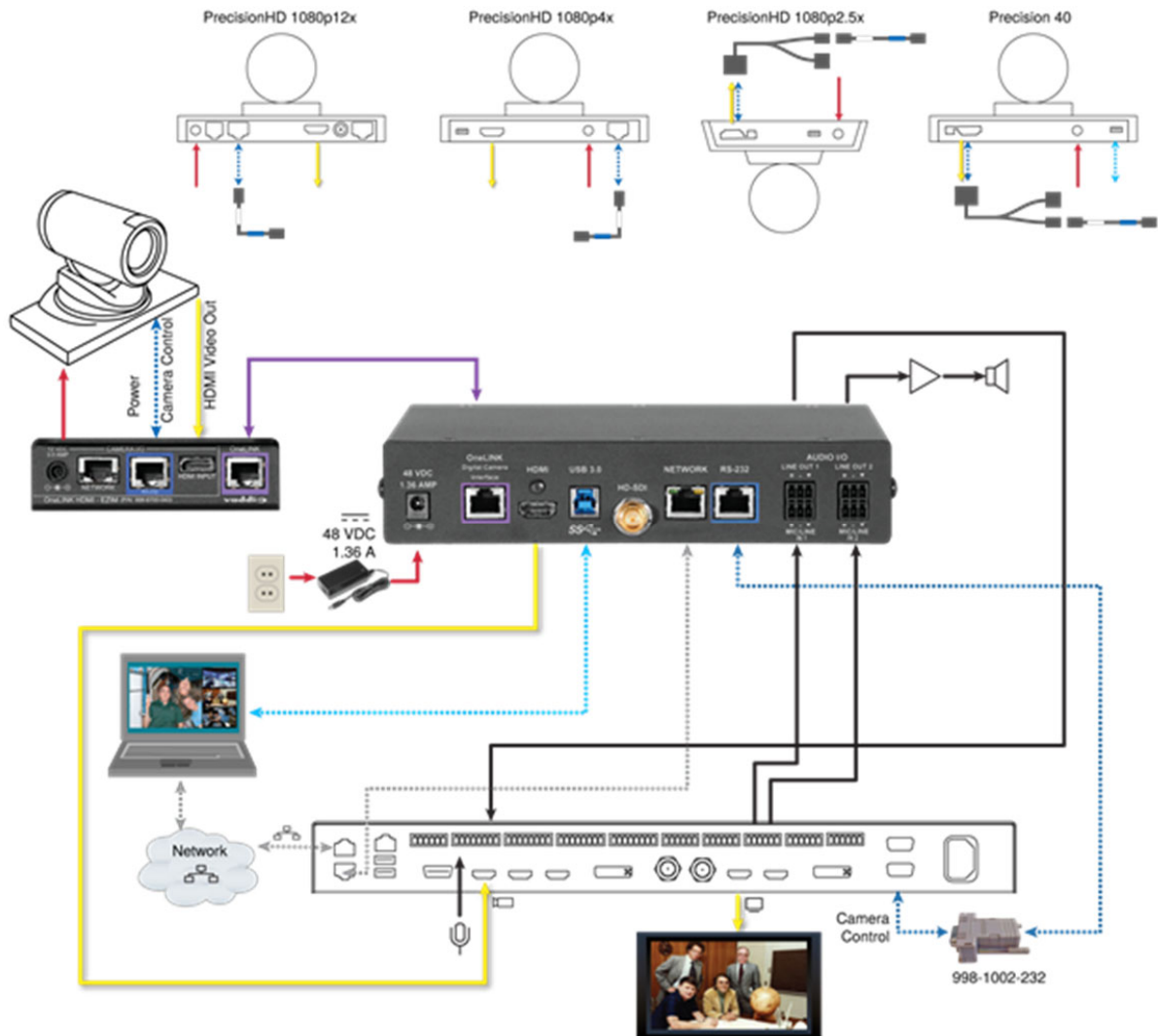
Cisco Precision 40 またはPrecision HD シリーズカメラおよびCisco C60 コーデック
C40 コーデックも同様に接続します。



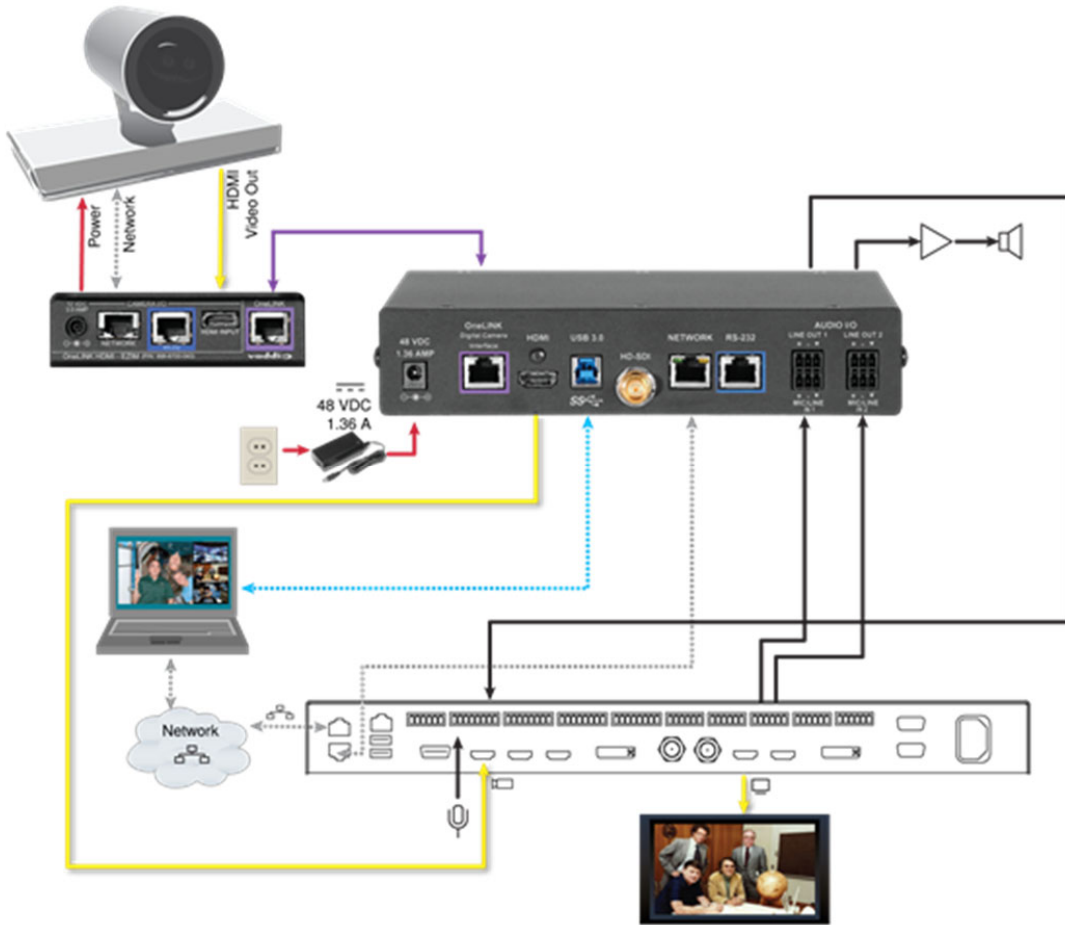
Cisco Precision 40 またはPrecision HD シリーズカメラおよびCisco SX20 コーデック



Cisco Precision 40 またはPrecision HD シリーズカメラおよびCisco SX80 コーデック



Cisco Precision 60 カメラおよびCisco SX80 コーデック



ハードウェアに関する注記: RS-232 接続

Dsub-9 コネクタを使用したCiscoコーデックへのRS-232 接続には、別売のRJ-45/Dsub-9 変換アダプターを使用します。多くのVaddio製品に同梱されているアダプターとは配線が異なります。

Ciscoスプリットケーブルを使用したCiscoコーデックへのRS-232 接続には、スプリットケーブルのRJ-45 側に適切なヌルモデムケーブルを使用します。ケーブルのラベルに示されているように、ヌルモデムケーブルを接続します。

ハードウェアに関する注記: 接続と設定の変更

機器を接続または設定したら、OneLINK Bridge、カメラ、およびコーデックを再起動します。OneLINK Bridgeのみを再起動しても、カメラとコーデックには影響しませんので、個別に再起動する必要があります。

OneLINK Bridgeの設定

インストールが完了してOneLINK Bridgeとカメラが動作可能になった後、上の図に示すようにオーディオ接続を行った場合は、AEC(エコーキャンセラ)のリファレンスを変更する必要があります。スピーカー接続にLine Out 2 を使用する場合は、Master Output/AEC Reference をOutput2 に設定します。「オーディオフィードバックの防止」を参照してください。

装置の電源を入れる

OneLINK Bridgeから電源が供給されていない接続機器(ディスプレイや他社製のコントロールデバイスなど)の電源を入れてから、OneLINK Bridgeに電源を接続します。接続したカメラとOneLINK機器が一緒に電源投入されます。

カメラの設定

カメラ側で以下の設定が必要な場合があります:

- ネットワーク設定
- ストリーミング設定
- ビデオ解像度およびその他のカメラ設定

詳細については、カメラの取扱説明書を参照してください。

本体の設定および管理

OneLINK Bridge AVインターフェースは、Webブラウザを使用して設定および管理を可能にするWebインターフェースを提供します。

Webインターフェースを使用すると、パスワードの設定、IPアドレスの変更、診断の表示、ファームウェアアップデートのインストールなどにパスワードで保護されたアクセスができます。

注意

OneLINK Bridgeはカメラコントロール装置ではありません。カメラを設定または操作するには、カメラのWebインターフェースを使用します。詳しくはカメラの取扱説明書をご覧ください。

注意

接続されたカメラは、OneLINK Bridgeとは個別に設定されます。OneLINK Bridgeの設定を変更しても、カメラやその他の接続機器の設定には影響しません。カメラの設定方法を変更する必要がある場合は、カメラのWebインターフェースにログインします。

対応ウェブブラウザ

この製品は、以下のWebブラウザでテスト済みです:

- Chrome®
- Firefox®
- Microsoft® Internet Explorer®
- Safari®

現時点でベンダーから入手可能なバージョンのブラウザを使用して、テストしています。これらのブラウザの古いバージョンや他のブラウザでも動作する可能性があります。

Webインターフェースへのアクセス

IP アドレスを取得するには:

本体の前面パネルにあるDisplay IP and MAC Address ボタンを押します。本体のIPアドレスとMACアドレスが、HDMI、HD-SDI、およびUSBストリーム出力にオーバーレイされます。ディスプレイを接続すれば画面に表示されますので、本体のIPアドレスを知ることができます。

OneLINK Bridgeは、DHCPサーバーが利用可能でない場合、169.254.10.1のデフォルトアドレスを使用します。必要に応じて、コンピューターをOneLINK Bridgeのネットワークポートに接続し、ネットワーク設定を変更してください。コンピューターによっては、クロスケーブルが必要な場合があります。

Webインターフェースにアクセスするには:

WebブラウザのアドレスバーにカメラのIPアドレスまたはホスト名を入力します。ホスト名を使用する場合は、ブラウザが検索クエリとして扱わないようにするために、プレフィックスとしてhttp:// を入力する必要があります。

ログインページが表示されます。管理者ログイン認証情報がない場合は、システム管理者に問い合わせてください。デフォルトの管理者ログインは、ユーザー名:admin、パスワード:password です。

ログインすると、Systemページが開きます。

注意

セキュリティをさいだい強化するために、工場出荷時設定のパスワードを変更することを強くお勧めします。工場出荷時設定のパスワードをそのまま使用すると、製品は改竄されやすくなります。アクセスおよびパスワードの管理を参照してください。

Webインターフェース構造の早見表

すべてのシステム管理タスクのページにアクセスするには、ログインする必要があります。

注意

OneLINK BridgeのWebインターフェースでは、接続されたカメラにアクセスできません。カメラを設定するには、カメラのWebインターフェース(カメラのIPアドレス)を使用します。

操作	移動すべきページ
接続したマイクをミュートする	全ページMUTEボタン
オーディオ入出力の調整	Audioページ
会議アプリケーションによる音声制御の許可	Streamingページ
USB ストリーミングの有効化または無効化	Streamingページ
現在のファームウェアバージョンを確認する	Systemページ
管理者パスワードの変更	Securityページ
再起動、工場出荷時設定への復元、またはファームウェアアップデートの実行	Systemページ
機器が設置されている部屋、またはAVサポート用の電話番号に関する情報を追加または変更	Room Labelsページ
タイムゾーンまたはNTP 設定の構成	Networkingページ
無操作状態が続いた時に自動的にクローズするかどうかの指定	Securityページ
IPアドレスを設定する	Networkingページ
本体のホスト名を表示または変更	Networkingページ
本体のUSB機器名を表示または変更	Streamingページ
テクニカルサポートの連絡先情報へのアクセス	Helpページ
診断ログの表示またはダウンロード	Diagnosticsページ

ナビゲーションパネルには、セッションを正常に終了し、Webインターフェースをパスワードで保護された状態にしておくためのログアウトボタンも用意されています。

ネットワーク設定の構成

Networkingページ

これらの設定は、OneLINK Bridgeのみに適用されます。カメラは個別に設定します。

DHCPアドレス指定が工場出荷時設定です。DHCP環境ではネットワークアドレスが自動的に割り当てられ、ネットワーク設定を変更する必要はありません。

OneLINK Bridgeは、DHCPサーバーが利用可能でない場合、169.254.10.1のデフォルトアドレスを使用します。この場合、コンピューターをOneLINK Bridgeのネットワークポートに接続し、ネットワーク設定を構成する必要があります。コンピューターによっては、クロスケーブルが必要な場合があります。

注意

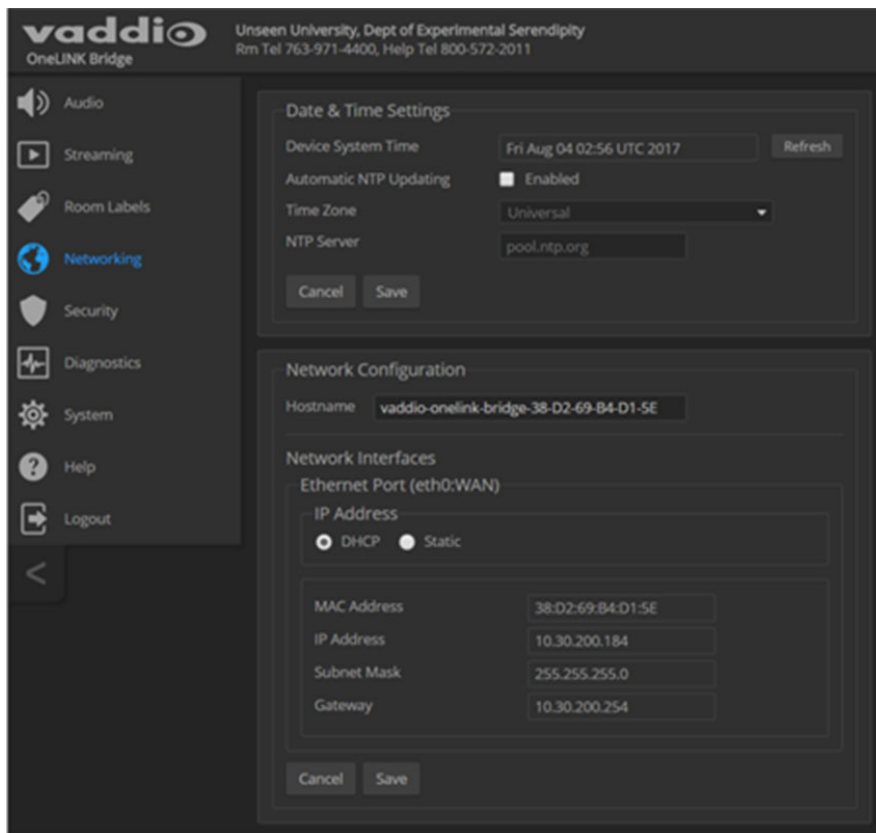
ネットワーク設定を変更する場合は、本装置を接続するネットワークの管理者に相談してください。ネットワーク構成にエラーがあると、ネットワークから本装置およびその他の接続機器にアクセスすることができなくなる可能性があります。本装置を接続するネットワークの構成及びネットワークの知識に精通している場合を除き、DHCP//Static、IPアドレス、サブネットマスク、又はゲートウェイを変更しないでください。

スタティック IP アドレスを割り当てるには:

1. IP Addressセクションで、Staticを選択します。
2. IPアドレス、サブネットマスク、およびゲートウェイアドレスを指定します。
3. Saveボタンを押して、変更内容を保存します。

ヒント

IPアドレスは必ずメモを取ってください。ハードウェアの出荷時設定へのリセットはありません。



ホスト名の割り当て

Networkingページ

OneLINK BridgeAVインターフェースのデフォルトのホスト名は、文字列vaddio-onelink-bridge の後にデバイスのMAC アドレスが続きます。これは、ホスト名フィールドで変更できます。

ネットワークがホスト名をサポートしている場合は、IPアドレスを忘れてしまった場合でも、ホスト名でOneLINK Bridgeを参照できます。この場合、IT部門のガイドラインに従ってホスト名を割り当てることができます。

ホスト名を編集するには:

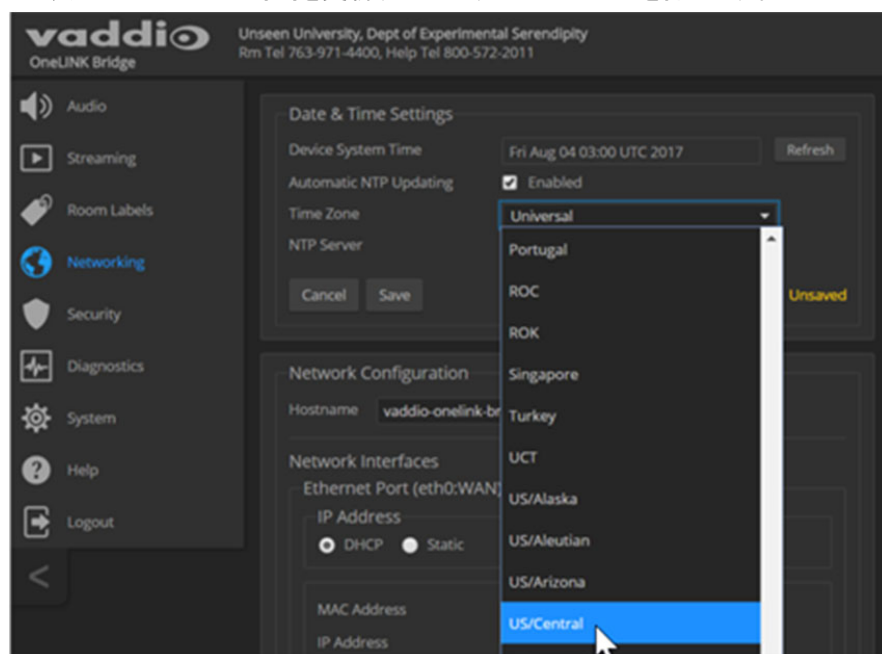
Hostname(ホスト名)のテキストボックスに目的のホスト名を入力し、Saveボタンを押して変更を保存します。

タイムゾーンとNTPサーバーの指定

Networkingページ

データエクスポートが正確なタイムスタンプを受け取るようにし、Networkingページに正しい日付と時刻を表示するには、NTP 更新を有効にする必要があります。

1. Automatic NTP UpdatingのEnabledをチェックして有効にします。
2. Time Zoneのプルダウンリストから目的のタイムゾーンを選択します。
3. 必要に応じて、使用するNTPサーバーを指定します。それ以外の場合は、デフォルトを使用します。
4. 表示された日付や時刻を更新するには、Refreshボタンを押します。



アクセスとパスワードの管理

Securityページ

このページでできること:

- 非アクティブなセッションが自動的にログオフするかどうかを設定します
- 管理者アカウントのパスワードを変更します(工場出荷時設定はpassword)。
- OneLINK Bridge へのTelnet アクセスを無効にします(これは工場出荷時設定では有効になっています)。
- WebアクセスにHTTPSを要求するように設定します(工場出荷時設定では、HTTPも許可されています)

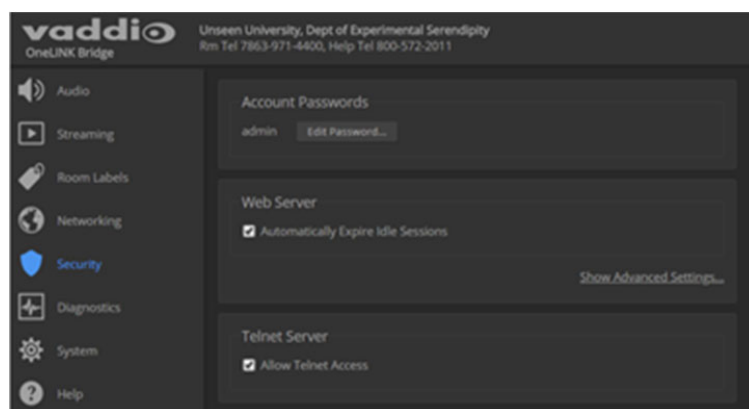
OneLINK機器が最新のファームウェアでアップデートされていない場合、これらの機能の一部が使用できないことがあります。

注意

セキュリティを強化するために、パスワードを工場出荷時設定から変更することを強くお勧めします。工場出荷時設定のパスワードをそのまま使用すると、製品は改竄されやすくなります。

ヒント

管理者パスワードを変更したら忘れないようにしてください。ハードウェアの出荷時設定へのリセットはありません。



Telnetアクセスの無効化

Securityページ

Telnet 経由のアクセスが不要な場合は、本装置内部のTelnetサーバーを無効にできます。

HTTPSの有効化

Securityページ

工場出荷時設定では、WebインターフェースはHTTPプロトコルを使用します。代わりに、安全なHTTPS接続を要求するように本装置のWebインターフェースを設定できます。

注意

カメラのSSL証明書を管理するには、ネットワークセキュリティの専門家に相談してください。組織のネットワークセキュリティ専門家の指示なしに、証明書またはプライベートキーのテキストボックスを変更しないでください。

1. Web ServerセクションのShow Advanced Settingsを選択します。詳細オプションが開きます。
2. 安全なHTTPS接続に切り替えるには、Switch to HTTPSを選択します。

注意

サイトの証明書が無効であるため、接続が安全でないことを警告するメッセージがブラウザに表示される場合があります。これは、HTTPS が使用されているがSSL 証明書がインストールされていない場合に起こります。

3. HTTPS接続を要求するには、HTTP Access Enabledのチェックボックスをオフにします。カメラのWebインターフェースが、HTTPS接続でのみ使用できるようになります。

Webインターフェースへのルーム情報の追加

Room Labelsページ

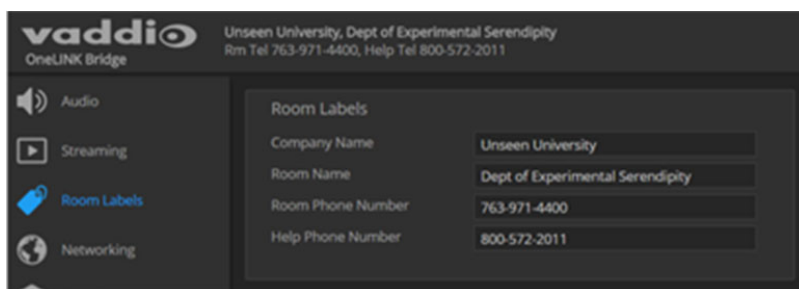
このページでは、OneLINK Bridge AVインターフェースの場所に関する情報を提供します：

- 組織名
- 機器が設置されている部屋の名称
- 機器が設置されている部屋の電話番号
- AVまたはITサポートチームの電話番号

この情報は、本装置のWebインターフェースの各ページに表示されます。

注意

これは、接続されているカメラのWebインターフェースに表示されるルーム情報（存在する場合）には影響しません。



ストリーミング設定の構成

Streamingページ

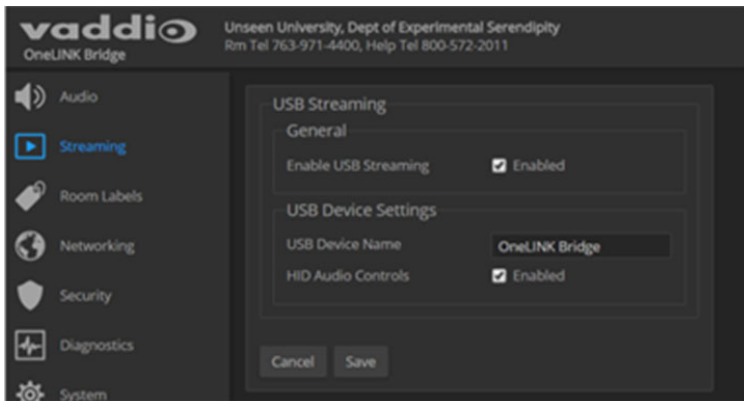
IPストリーミング機能はカメラ側にありますので、カメラで設定します。OneLINK BridgeAVインターフェースはカメラからのIPストリームをブリッジします。

USBインターフェースを持たないカメラの場合、OneLINK Bridge AVインターフェースはUSBストリーミング機能を提供します。

Streamingページでは：

- USBストリーミングの無効化/有効化
- 会議アプリケーションによる音声の制御を許可します
- USBデバイス名を編集します

このページで変更を行ったら、必ず保存を実行してください。



ストリーミングを無効または有効にするには：

USBストリーミングは工場出荷時設定では有効になっています。これを変更するには、Enable USB Streaming の Enabledチェックボックスを使用します。

コンピューターからオーディオを制御するには：

HID Audio Controls のEnabledチェックボックスをオンにします。

注意

HID Audio Controlsが有効になっている場合、音量を手動でコントロールすることをお勧めします。会議アプリケーションがボリュームを自動的に管理できるようにすると、望ましくない結果になる可能性があります。

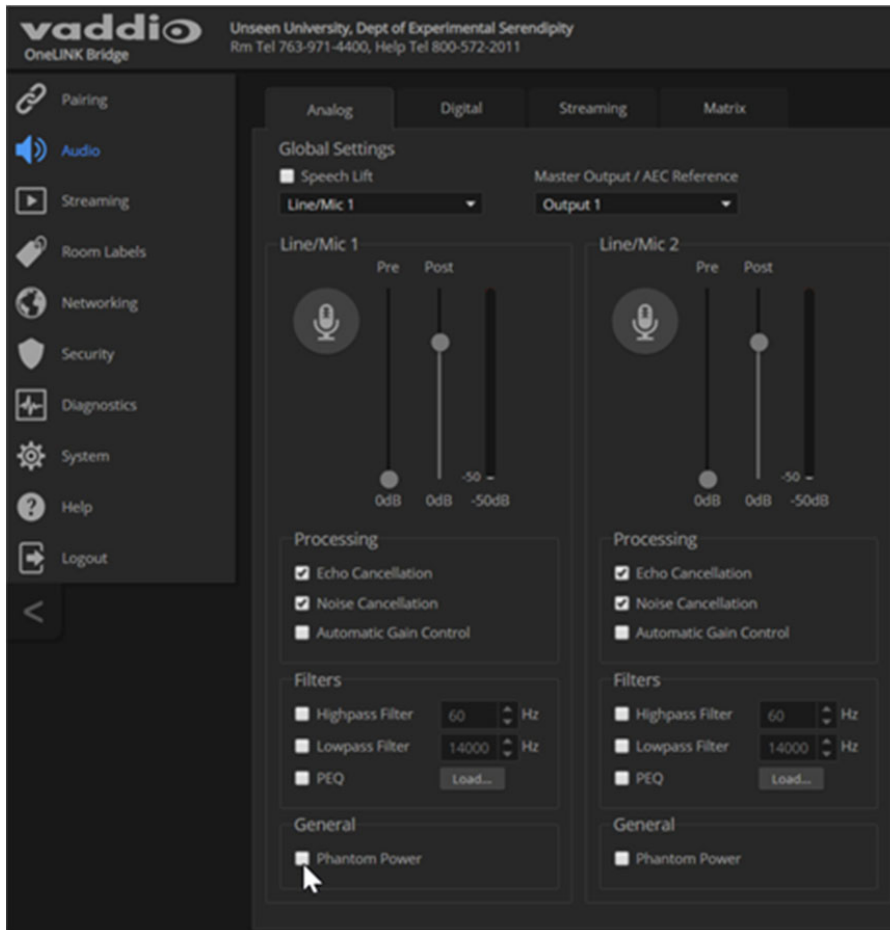
USBデバイス名を編集するには：

本装置がソフトクライアントの選択リストに表示される名称を変更するには、USB Device Nameのテキストボックスを編集します。

マイクへのファンタム電源の有効化

Audioページ、Analogタブ

接続したマイクにDC48Vファンタム電源を供給するには、ライン/マイク入力のコントロールの下にあるGeneralセクションのPhantom Powerチェックボックスをオンにします。



オーディオ設定の構成

Audioページ

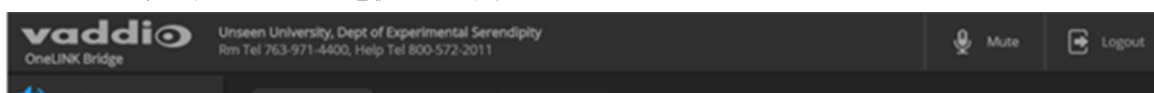
Webインターフェースは、オーディオ入力およびオーディオ出力のそれぞれに対して別々の制御を提供します。

- アナログ(Mic/Line In 1、2、Line Out 1、2)
- デジタル(HDBT入力L/R、HDMI出力L/R、SDI出力L/R)
- ストリーミング(USBプレイバックL/R、HDBT出力L/R、USBレコードL/R)

AudioページのMatrixタブでは、オーディオのルーティングを設定します。

マイクのミュート

ページの上部にあるMuteボタンを使用します。



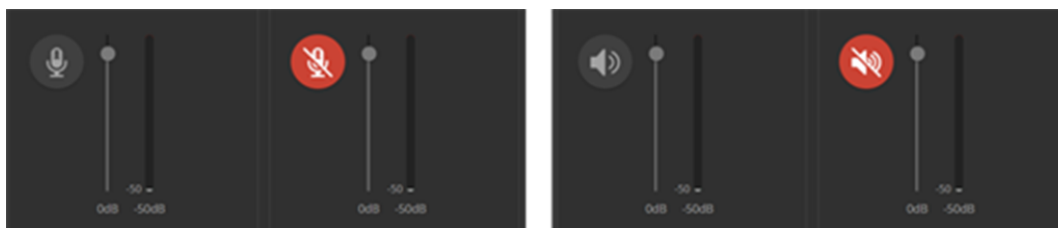
個々の入力または出力のボリュームをコントロールする

Audioページ、Analogタブ、Digitalタブ、Streamingタブ

ボタンを使用して、目的のオーディオ入力または出力をミュートします。スライダーを使用して音量を設定します。

注意

ほとんどのコンピューターで最高のパフォーマンスを得るには、USB録音ボリュームを高く設定することをお勧めします。



マイクの工場出荷時設定

Audioページ、Analogタブ

アコースティックエコーキャンセラー(Acoustic Echo Cancellation) : 指定した出力信号をライン/マイク入力からキャンセルすることで、オーディオフィードバックを防止します。

注意

会議コーデックでOneLINK Bridgeを使用する場合は、OneLINK Bridgeであるかコーデックであるかにかかわらず、1つのデバイスでのみエコーキャンセルが有効になっていることを確認します。OneLINK Bridgeとコーデックの両方でエコーキャンセルが有効になっていると、予期しないオーディオエフェクトが発生する可能性があります。OneLINK Bridgeでエコーキャンセルを無効にし、会議コーデックがそれを処理できるようにすることをお勧めします。

ノイズキャンセレーション(Noise Cancellation):周囲のノイズを抑制します。

自動ゲインコントロール(Automatic Gain Control):無効。別の人が話すときの音量の違いを補正するためにゲインを調整します。

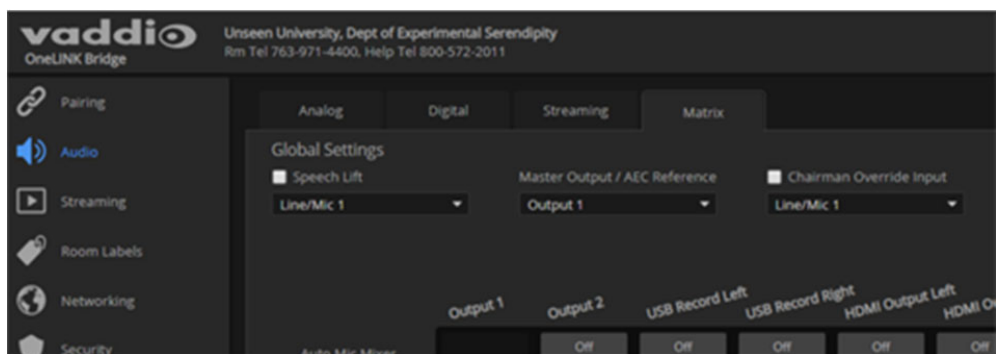


聴衆のいる環境でのマイク設定

Audioページ、Analogタブ、Matrixタブ

スピーチリフト(Speech Lift): 指定したマイクからの信号を部屋のスピーカーに送り、部屋の後ろの人が話している声を聞こえるようにします。

チェアマンオーバーライド(Chairman Override): 複数の人が話しているときに、指定されたマイクを優先します。(Matrixタブのみ)



マイクの調整

Audioページ、Analogタブ

より自然な音声再生に調整するには

- **ハイパスフィルター (High-pass filter)**: マイクがピックアップする最低周波数を指定します。この設定を使用すると、暖房/空調システムなどの低周波暗騒音を低減できます。
- **ローパスフィルター (Low-pass filter)**: マイクがピックアップする最高周波数を指定します。この設定を使用して、ヒス音を減らし、音声を自然にします。
- **PEQ (パラメトリックイコライザー)**: 特定の周波数範囲の音量を上げたり下げたりして、状況固有のオーディオ課題を補正します。

注意

イコライザーを使用して望ましい周波数をブーストするのではなく、望ましくない周波数範囲を減衰させる方法が望ましいです。



スピーカーの調整

Audioページ、Analogタブ、Streamingタブ

サウンドをビデオと同期するには:

ビデオがオーディオよりも顕著に遅れている場合、適切なオーディオ出力(アナログまたはストリーミングタブ)のdelayチェックボックスをチェックし、msec単位で遅延量を入力します。遅延は、出力によって異なる場合があります。

異なる音声ボリュームを補正するには:

相手側の一部の人の音が聞こえないのに、他の人の音が大きすぎる場合は、Compressorチェックボックスをチェックして、接続されているスピーカーからのダイナミックレンジを狭めます(Analogタブのみ)。

遠方の特定のオーディオ問題を補正するには:

アナログ出力のイコライザーを使用して、特定の周波数範囲を減衰させます。これは遠方の音声に、耳障りな空調システムや部屋特有のノイズなど、不要な要素が含まれている場合に役立ちます。

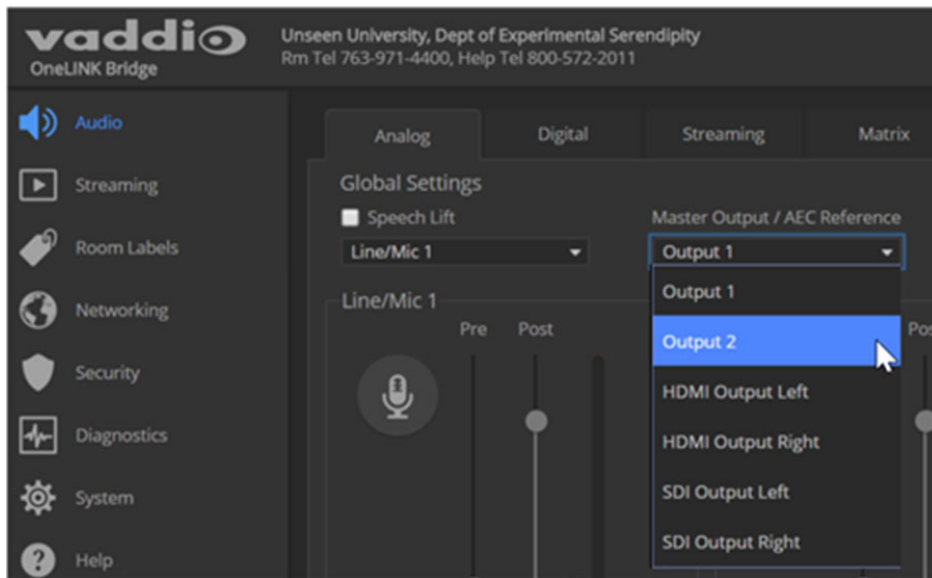


オーディオフィードバックの防止

Audioページ、Analogタブ

マイクがスピーカーから音声を拾うと、フィードバックが発生する場合があります。

1. 信号ソースに接続されている任意のライン入力でエコーキャンセレーションを選択します。
2. Global SettingsセクションのMaster Output/AEC Referenceのプルダウンリストで、リファレンスとして使用するオーディオ出力(入力からキャンセルされる信号)を選択します。本書の接続図の一部に示すように、スピーカー接続にLine Out2を使用する場合はOutput2に設定します。

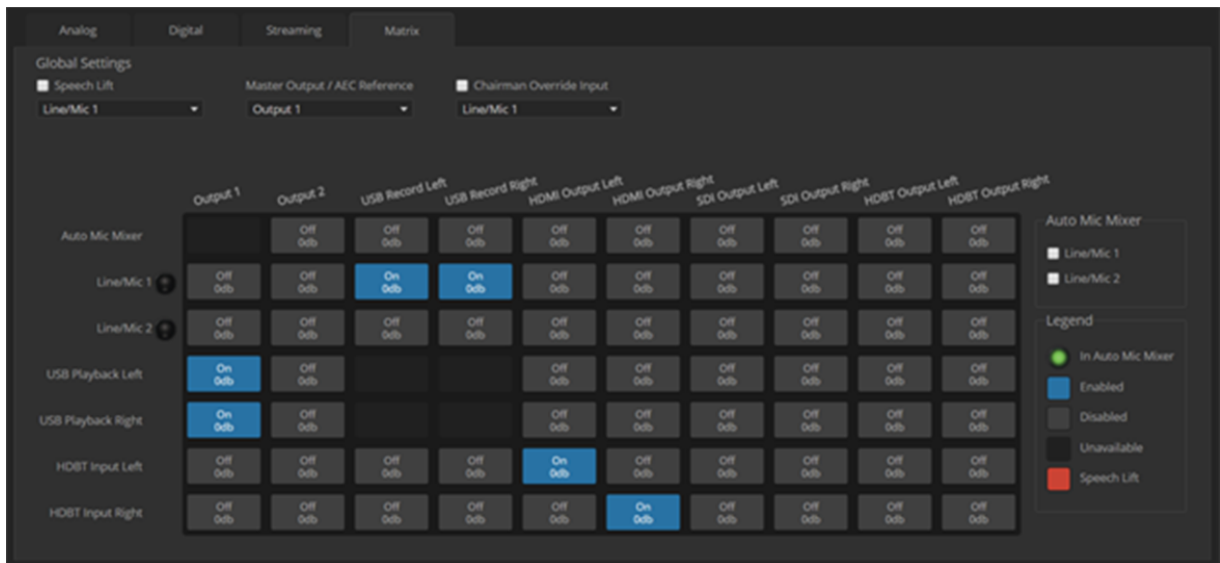


工場出荷時設定のオーディオマトリクス

Audioページ、Matrixタブ

オーディオマトリクスは、各オーディオの入出力がグリッド表示されます。マトリクスの各列は1チャンネルごとのオーディオ出力を示し、各行は1チャンネルごとのオーディオ入力を表示します。青色でハイライトされたセルは、その行の入力が、その列の出力にルーティングされていることを意味します。

- **USB Playback Left/Right (会議ソフトウェアクライアントからの相手側音声)** : Output 1 (ライン出力:通常は会議室のスピーカー)にルーティングします。
- **Line/Mic 1 (部屋のマイク)** : USB Record Left/Right (相手側の参加者が聞く音声)にルーティングします。
- **HDBT Input Left/Right (HDBT 接続でHDMI 信号の一部として入力される遠隔音声)** : HDMI Output Left/Rightにルーティングし、HDMIディスプレイのスピーカーに送られます。



オーディオのルーティング

Audioページ、Matrixタブ

OneLINK Bridge が特定のオーディオ入力をどのように使用するかを指定するには、まず該当する行を見つけてください。次に目的の出力を表す列を見つけ、目的の行と列が交差するセルを選択します。

例: USBストリーミングにはLeftとRightのオーディオチャンネルがありますが、工場出荷時設定では、Line/Mic 1がUSBオーディオ出力の両方のチャンネル(USB Record Left/Right)にルーティングされ、USBオーディオ入力の両方のチャンネルはOutput 1 (ライン出力) にルーティングされています。

マトリクスを変更して、USBオーディオ入力および出力の右チャンネルと左チャンネルを個別にルーティングできます。

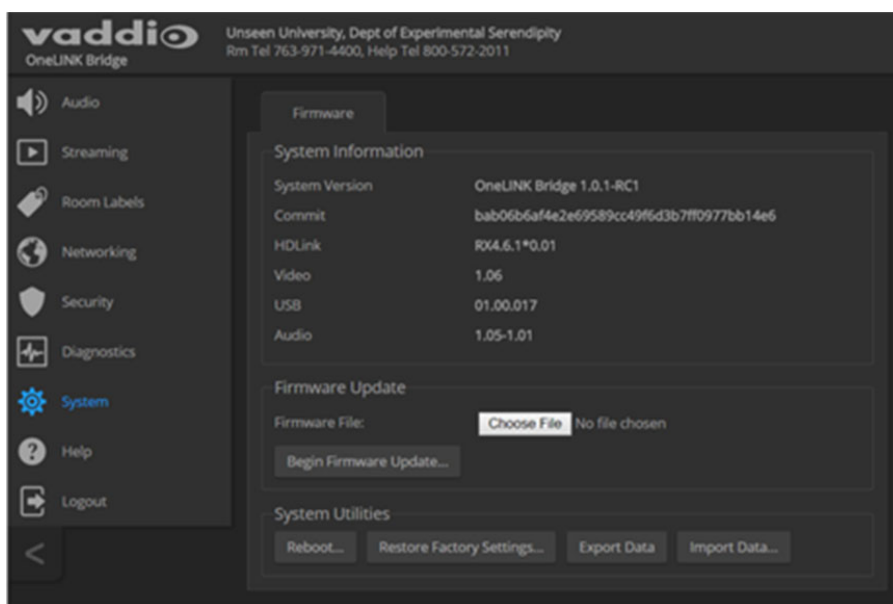
システム情報の閲覧

Systemページ

Systemページの情報にはファームウェアのバージョンが含まれているため、最新のアップデートがすでにインストールされているかどうかを確認することができます。

System ページには、次の機能も実行できます：

- 本体の再起動
- 設定データのバックアップまたは復元
- 工場出荷時設定の復元
- ファームウェアのアップデート



設定データの保存(Exporting)及び復元(Importing)

Systemページ

現在の本体の設定データをPCにエクスポートして保存することができます。これにより、別のOneLINK Bridgeにその設定データをインポートすることで、複数のOneLINK Bridgeを同じようにすばやく設定できます。また、変更を加えた設定が心配な場合に、すぐに実績のある良好な設定に戻すことができます。

PCに保存した設定ファイルは、エクスポートしたときと同じバージョンのファームウェアのOneLINK Bridgeにのみインポートできます。設定データをエクスポートした後に、本体のファームウェアを更新すると、その設定ファイルのインポートはできませんが、その必要はありません。ファームウェアをアップデートしても、本体の設定は変更されません。

現在の設定をエクスポートするには:

Export Dataボタンを選択します。現在の設定データは、コンピューターのデフォルトのダウンロード場所に.datファイルとしてダウンロードされます。

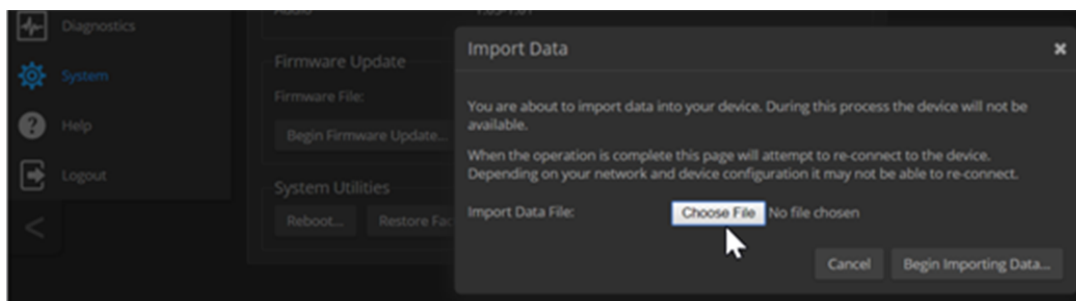
ファイル名は本装置のホスト名です。

注意

設定ファイルは別のOneLINK Bridgeからインポートできますが、ファイルのエクスポート元と同じバージョンのファームウェアを使用しているOneLINK Bridgeにのみインポートできます。つまりOneLINK Bridgeは、異なるバージョンのファームウェアからエクスポートされた設定ファイルをインポートできません。

設定ファイルをインポートするには:

1. Import Dataボタンを選択します。Import Dataダイアログが開きます。
2. Choose Fileボタンを押して、任意の設定ファイルを選択します。ファイル名はエクスポートしたOneLINK Bridgeのホスト名で、ファイル拡張子は.dat です。Begin Importing Dataボタンを押すと、OneLINK Bridgeが設定を読み込み再起動します。



OneLINK Bridgeの再起動

Systemページ

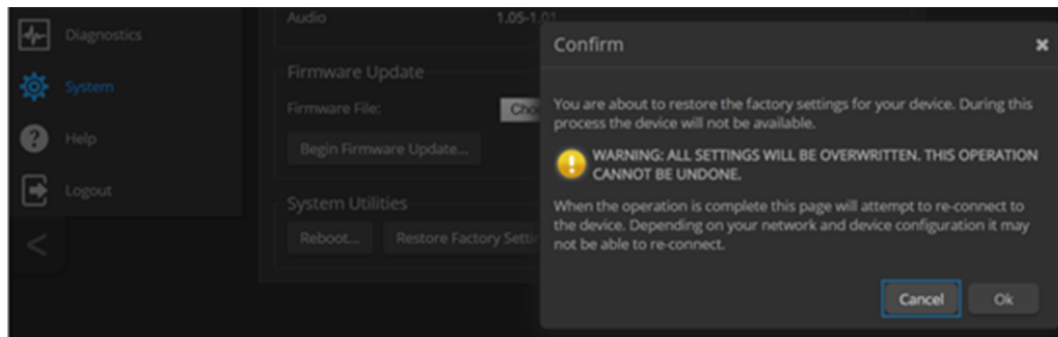
これは、本装置が応答しなくなった場合に役立ちます。

SystemページのSystem Utilitiesセクションで、Rebootボタンを選択します。

工場出荷時設定へのリストア

Systemページ

Restore Factory Settingsボタン を選択して、工場出荷時設定に戻します。Confirmダイアログが表示されますので、OKボタンまたはCancelボタンを選択する前に、確認メッセージを読んでください。



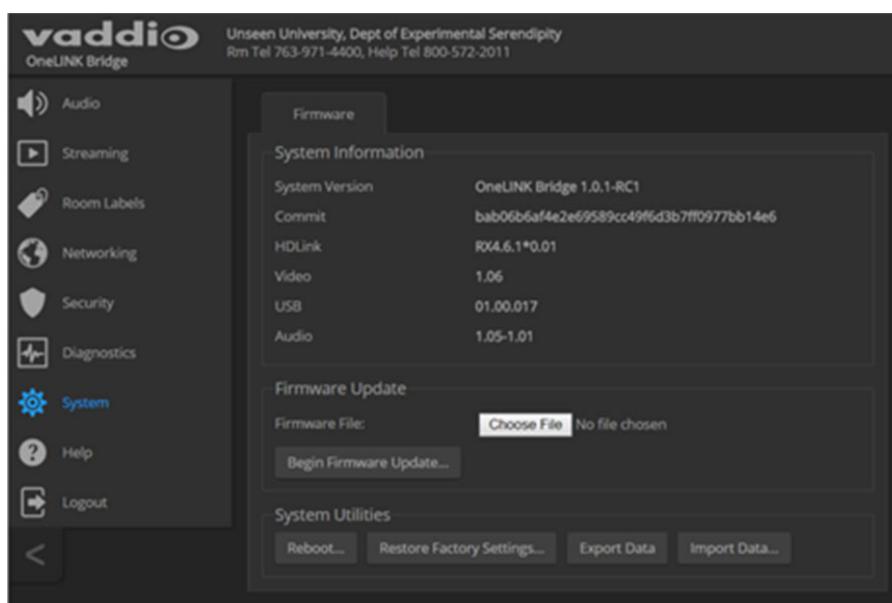
ファームウェアアップデートの開始

Systemページ

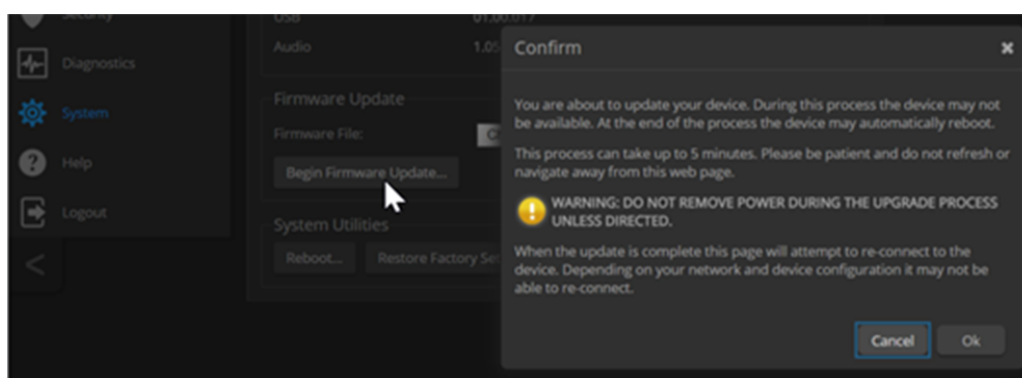
注意

ファームウェアのアップデート中は、本装置の電源を切ったり、取り外したりしないでください。ファームウェアアップデートを中断すると、本装置が使用できなくなる可能性があります。

1. 適切なアップデートファイルがコンピューターにダウンロードされていることを確認します。
2. Choose Fileボタンを選択し、ダウンロードしたファームウェアアップデートファイルを参照して選択します。ファイルの拡張子は、.p7mです。Choose Fileボタンの横にファイル名が表示されます。



3. 必要に応じてデータのエクスポートを選択して、本装置の現在の設定のコピーを保存します。ファームウェアのバージョンを元に戻す必要がある場合に役立ちます。
4. Begin Firmware Updateボタンを選択します。
5. Confirmダイアログが表示されますので、確認メッセージをお読みください。手間がかかる作業ではありますが、今後の時間とシステムの安定化に寄与します。



6. アップデートを開始する準備ができたなら、OKボタンを選択します。
7. 更新プロセスで警告またはエラーメッセージが表示された場合は、よくお読みください。
8. アップデートで問題が発生した場合は、販売店にお問い合わせください。

TelnetシリアルコマンドAPI

Vaddio Telnet シリアルコマンド API は、AMX や Crestron などの外部制御コントローラーからOneLINK Bridgeを制御できるようにする、テキストベースのコマンドラインインターフェースです。Telnetクライアントを使用して、ネットワーク経由でAPIにアクセスします。工場出荷時設定のTelnetポートは23です。Telnetセッションには管理者アカウントのログインが必要です。

疑問符をコマンド・パラメーターとして使用すると、使用中のメニューで使用可能なコマンドのリストが表示されます。

Telnetセッションを介した制御について理解すべきこと:

- コマンドラインは改行で終わります。
- すべてのASCII文字(改行を含む)はターミナル・プログラムにエコーされ、ほとんどのターミナル・プログラムで自動的に削除されるVT100文字列ESC[J(16進数1B 5B 4A)が付加されます。
- CTRL-5は、デバイス上の現在のシリアルバッファをクリアします。

表記規則:

- {x | y | z}: x、y、またはzを選択します。
- <variable>: ここで目的の値に置き換えます。
- <x - y>: 値の有効な範囲はxからyです。
- [parameter]: パラメーターは不要です。

注意

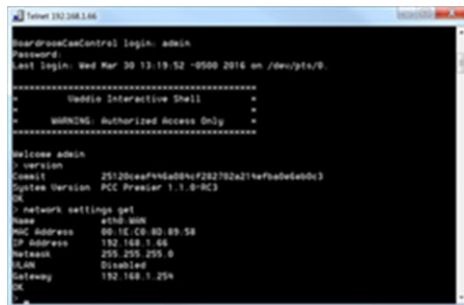
このガイドのコマンドは、OneLINK Bridgeに適用されます。カメラ自体を制御するには、カメラのIPアドレスへのTelnetセッションを開き、カメラ用のTelnetコマンドを使用します。


link powerコマンド

カメラ接続をONまたはOFFに設定します。

注意

OneLINK Bridgeからはカメラ制御を行いません。カメラの電源を切らずにカメラをスタンバイに設定するには、カメラのIRリモコンまたは他のカメラコントロールインターフェースを使用して、カメラに直接スタンバイコマンドを発行します。



構文	link power {on off}	
パラメーター	off	カメラに供給する電源を切ります。OneLINK Bridgeが link power on コマンドを受信するか、再起動するまで、カメラの電源はオフのままです。
	on	カメラに供給する電源を入れます。
例 	<pre> >link power off OK > </pre> カメラに供給する電源を切ります。	

audio volumeコマンド

指定したオーディオチャンネルの音量を取得または設定します。

構文	audio [channel] volume {get on off toggle}	
チャンネル	master	すべてのオーディオチャンネルにコマンドを適用します。
	line_in_1 line_in_2	ライン/マイク入力ポート (通常はマイク入力)、チャンネル1/2
	usb3_playback_left usb3_playback_right	USBストリームのオーディオ入力 (相手側音声)、チャンネルL/R
	hdbt_in_left hdbt_in_right	HDBT接続経由の入力オーディオ HDMI信号、チャンネルL/R
	line_out_1 line_out_2	ライン出力ポート (通常はスピーカー出力) チャンネル1/2
	usb3_record_left usb3_record_right	USBストリームのオーディオ出力 (相手側へ送出)、チャンネルL/R
	hdmi_out_left hdmi_out_right	HDMI出力のオーディオ部分 (ディスプレイに接続: 通常は相手側音声)、チャンネルL/R
	sdi_out_left sdi_out_right	SDI 出力のオーディオ部分 (ディスプレイに接続: 通常は相手側音声)、チャンネルL/R
	hdbt_out_left hdbt_out_right	IPストリーム出力のオーディオ部分 (遠隔へ送出) チャンネルL/R
パラメータ	get	指定したチャンネルの現在の音量値を取得します。
	up	指定したチャンネルの音量を上げます。
	down	指定したチャンネルの音量を下げます。
	set	指定したチャンネルの音量を設定します。
例	<pre>audio line_in_1 volume set -5 OK > ライン入力1ポートに接続した機器の音量を-5dBに設定します。 audio line_out_1 volume get volume get volume -10.0 dB OK ></pre> <p>ライン出力ポートに接続されたスピーカーへの現在の音量を取得します。音量は-10.0dBです。</p>	

audio muteコマンド

指定したオーディオチャンネルのミュート状態を取得または設定します。

構文	audio [channel] mute {get on off toggle}	
チャンネル	master	すべてのオーディオチャンネルにコマンドを適用します。
	line_in_1 line_in_2	ライン/マイク入力ポート (通常はマイク入力)、チャンネル1/2
	usb3_playback_left usb3_playback_right	USBストリームのオーディオ入力 (相手側音声)、チャンネルL/R
	hdbt_in_left hdbt_in_right	HDBT接続経由の入力オーディオ HDMI信号、チャンネルL/R
	line_out_1 line_out_2	ライン出力ポート (通常はスピーカー出力) チャンネル1/2
	usb3_record_left usb3_record_right	USBストリームのオーディオ出力 (相手側へ送出)、チャンネルL/R
	hdmi_out_left hdmi_out_right	HDMI出力のオーディオ部分 (ディスプレイに接続: 通常は相手側音声)、チャンネルL/R
	sdi_out_left sdi_out_right	SDI 出力のオーディオ部分 (ディスプレイに接続: 通常は相手側音声)、チャンネルL/R
	hdbt_out_left hdbt_out_right	IPストリーム出力のオーディオ部分 (遠隔へ送出) チャンネルL/R
	パラメータ	get
on		指定したチャンネルのオーディオをミュートします。
off		指定したチャンネルのオーディオをミュート解除します。
toggle		指定したチャンネルのミュート状態を変更します。ミュートされている場合はミュート解除し、そうでない場合はミュートします。
例	<pre>> audio line_out_1 mute get mute: off OK ></pre> <p>ライン出力1の現在のミュート状態を取得します。ミュートがオフになっているため、オーディオは出力されます。</p> <pre>> audio master mute on OK ></pre> <p>すべてのチャンネルのオーディオをミュートします。</p>	

audio routingコマンド

指定した出力にルーティングされた入力を取得または設定します。

構文	audio [channel] route {get set}	
出力チャンネル	line_out_1 line_out_2	ライン出力ポート (通常はスピーカーへ出力) チャンネル1/2
	usb3_record_left usb3_record_right	USBストリームのオーディオ出力 (相手側へ送出) チャンネルL/R
	hdmi_out_left hdmi_out_right	HDMI出力のオーディオ部分 (ディスプレイに接続: 通常は相手側音声)、チャンネルL/R
	sdi_out_left sdi_out_right	SDI 出力のオーディオ部分 (ディスプレイに接続: 通常は相手側音声)、チャンネルL/R
	hdbt_out_left hdbt_out_right	IPストリーム出力のオーディオ部分 (遠隔へ送出) チャンネルL/R
パラメータ	get	指定した出力のルーティング状態を取得します。
	set	指定した入力のルーティング先を設定します。
入力チャンネル	line_in_1 line_in_2	ライン/マイク入力ポート (通常はマイク入力) チャンネル1/2
	usb3_playback_left usb3_playback_right	USBストリームのオーディオ入力 (相手側音声)、 チャンネルL/R
	hdbt_in_left hdbt_in_right	HDBT接続経由の入力オーディオ HDMI信号、 チャンネルL/R
例	<pre>> audio line_out_1 route get [usb3_playback_left usb3_playback_right] OK ></pre> <p>Line Out 1 (通常はスピーカー) に現在ルーティングされているソース入力を取得します。USBストリームから入力される遠隔オーディオの両チャンネルが、現在この出力にルーティングされています。</p>	


audio crosspoint gainコマンド

特定の出力と入力間のクロスポイントの現在のルーティングゲインをdB単位で取得または設定します。

構文	audio<output>crosspoint-gain<input>[get set<level>]	
出力チャンネル	line_out_1 line_out_2	ライン出力ポート (通常はスピーカーへ出力) チャンネル1/2
	usb3_record_left usb3_record_right	USBストリームのオーディオ出力 (相手側へ送出) チャンネルL/R
	hdmi_out_left hdmi_out_right	HDMI出力のオーディオ部分 (ディスプレイに接続: 通常は相手側音声)、チャンネルL/R
	sdi_out_left sdi_out_right	SDI 出力のオーディオ部分 (ディスプレイに接続: 通常は相手側音声)、チャンネルL/R
	hdbt_out_left hdbt_out_right	IPストリーム出力のオーディオ部分 (遠隔へ送出) チャンネルL/R
入力チャンネル	line_in_1 line_in_2	ライン/マイク入力ポート (通常はマイク入力) チャンネル1/2
	usb3_playback_left usb3_playback_right	USBストリームのオーディオ入力 (相手側音声)、 チャンネルL/R
	hdbt_in_left hdbt_in_right	HDBT接続経由の入力オーディオ HDMI信号、 チャンネルL/R
パラメータ	get	指定された入力から指定された出力へのゲイン 値を取得します。
	set <-12.0 .. 12.0>	指定した入力から指定した出力へのゲインを設 定します。有効な範囲は-12.0dB ~ +12.0dB で す。
例	<pre>> audio program_out_left crosspoint-gain usb3_in_left get 3.9 OK ></pre> <p>USBストリーム入力の左チャンネルをプログラム出力の左チャンネルにルーティングした ゲイン値を取得します。ゲインは、3.9dBです。</p> <pre>> audio program_out_left crosspoint-gain usb3_in_left set -3 OK ></pre> <p>USBストリーム入力の左チャンネルからプログラム出力の左チャンネルへのルーティング ゲインを -3dB に設定します。</p>	

sleepコマンド

次のコマンドを実行する前に、指定した時間だけ休止します。

構文	sleep< milliseconds >	
パラメータ	<milliseconds>	休止する時間(1 ~ 10000) 単位はミリ秒(msec)
例	 <pre>>sleep 7000 OK ></pre> 7 秒間(7000 ミリ秒) 休止します。	

network setting getコマンド

MACアドレス、IPアドレス、サブネットマスク、およびゲートウェイの現在のネットワーク設定を取得します。

構文	network settings get	
例	<pre>> network settings get Name eth0: WAN MAC Address 00:1E:C0:F6:CA:7B IP Address 192.168.1.67 Netmask 255.255.255.0 VLAN Disabled Gateway 192.168.1.254 OK ></pre>	

network pingコマンド

特定のIPアドレスまたはホスト名に、ICMP(インターネット制御通知プロトコル)の ECHO_REQUESTを送信します。

構文	network ping [count<count>] [size<size>]<destination-ip>	
パラメータ	<count>	送信するECHO_REQUESTパケットの数。工場出荷時設定は5 パケットです。
	<size>	各ECHO_REQUESTパケットのサイズ。工場出荷時設定は56 バイトです。
	<destination-ip>	ECHO_REQUESTパケットが送信されるIPアドレス。
例	<pre>>network ping 192.168.1.66 PING 192.168.1.66 (192.168.1.66): 56 data bytes 64 bytes from 192.168.1.66: seq=0 ttl=64 time=0.476 ms 64 bytes from 192.168.1.66: seq=1 ttl=64 time=0.416 ms 64 bytes from 192.168.1.66: seq=2 ttl=64 time=0.410 ms 64 bytes from 192.168.1.66: seq=3 ttl=64 time=0.410 ms 64 bytes from 192.168.1.66: seq=4 ttl=64 time=3.112 ms ---192.168.1.66 ping statistics --- 5 packets transmitted, 5 packets received, 0% packet loss round-trip min/avg/max = 0.410/0.964/3.112 ms ></pre> <p>192.168.1.66のホストにそれぞれ56バイトの5つのECHO_REQUESTパケットを送信します。</p>	
	<pre>>network ping count 10 size 100 192.168.1.1</pre> <p>各100バイトの10個のECHO_REQUESTパケットを192.168.1.1のホストに送信します。コマンドは、上記と同じ形式でデータを返します。</p>	

system rebootコマンド

すぐに、または指定された遅延後にシステムを再起動します。システムを工場出荷時設定にリセットする(system factory-reset)場合にも、再起動が必要になることに注意してください。

構文	system reboot [<seconds>]	
パラメータ	<seconds>	再起動を遅延させる秒数。
例	<pre>>system reboot OK ></pre> <p>The system is going down for reboot NOW! onelink-bridge-D8-80-39-62-A7-C5</p> <p>システムをただちに再起動します。</p>	
	<pre>>system reboot 30</pre> <p>30 秒後にシステムを再起動します。応答は遅延の終わり(30秒後)に表示されます。</p>	

system factory resetコマンド

工場出荷時へのリセットステータスを取得または設定します。出荷時設定へのリセットがONの場合、OneLINK Bridgeは再起動時に工場出荷時設定にリセットされます。


注意

接続されているカメラはリセットしません。

構文	system factory-reset {get on off}	
パラメーター	get	現在の出荷時設定へのリセットステータスを取得します。
	on	再起動時に出荷時設定へのリセットを有効にします。
	off	再起動時の出荷時設定へのリセットを無効にします。
例	<pre>>system factory-reset get factory-reset (software) : off factory-reset (hardware) : off OK ></pre> <p>出荷時設定へのリセットステータスを取得します。ステータスは、Off です。</p> <pre>>system factory-reset on factory-reset (software) : on factory-reset (hardware) : off OK ></pre> <p>再起動時の出荷時設定へのリセットを有効にします。</p> <p>注意 このコマンドは、出荷時設定へのリセット(ファクトリーリセット)を開始しません。出荷時設定へのリセットは、次回の再起動時に行われます。</p>	

historyコマンド

現在のTelnet セッションから最後に発行されたコマンドを返します。多くのプログラムは入力を一度に1行ずつ読み取るので、コマンド履歴を使用してこれらの行を追跡し、履歴情報を呼び出します。

構文	history<limit>	
パラメーター	<limit>	返されるコマンドの最大数を指定する整数値。
例	history 現在のコマンドバッファを表示します。 history 5 最後の5つのコマンドエントリを記憶するためのコマンド履歴バッファを設定します。	
追加情報	 <p>上下の矢印キーを使用して、コマンド履歴をナビゲートできます。このコマンドは、単一セッション内から以前のコマンドを呼び出すことができる拡張機能をサポートしています。 履歴の展開は、行の読取が完了した直後に実行されます。 履歴拡張の例： * !! : 最後のコマンドラインを置き換えます。 * !4 : 4行目のコマンドを置き換えます。(各historyコマンド) * !-3 : 3行前に入力したコマンドラインを置き換えます。(相対)</p>	

versionコマンド

OneLINK Bridgeの現在のファームウェアバージョンを取得します。

構文	version
例	version 現在のファームウェアのバージョン情報を以下の形式で返します： Audio 1.05-1.01 Commit a735fee1ab6270e693e2791b76a9bcbdf5bd36b5 HDLINK RX4 6.1x0.01 System Version OneLINK Bridge 1.0.0 USB 01.00.017 Video 1.06 OK >

helpコマンド

CLI (Command Line Interface)構文の概要を表示します。

構文	help
例	help 

exitコマンド

セッションを終了し、ソケットを閉じます。

構文	exit
例	exit

仕様

機能

ビデオ出力	HDMI、USB 3.0、およびHD-SDI の同時出力		
USB 3.0ストリーミング	非圧縮ビデオおよび双方向でステレオオーディオのUSB 3.0ストリーミングが可能	IPストリーミング	カメラからのIPストリームをネットワークにブリッジ（カメラの機能による）
オーディオ入力	ノイズ/エコーキャンセレーションを備えたマイク/ラインレベルのファンタム電源供給可能なチャンネル×2	オーディオ出力	2チャンネルのバランスラインレベルオーディオ出力
ミキシング機能	6×10オーディオミキサー。オーディオはすべての出力にルーティング可能		
コントロール機能	設定用Webインターフェース 外部制御システムのためのTelnet API イーサネットおよびRS-232コントロールのカメラへのパススルー ルームオーディオコントロール用のUSB Human Interface Device (HID)		
最大ケーブル長	Cat-6 ケーブル:100m、Cat-5e:70m		

電源

入力電源	DC48V、1.36A	カメラへの出力電力	DC12V、3.0 A
寸法	H44xW213 x D152 mm	質量	約1.5kg
動作保管温度	0° ~40° C	動作保管湿度	20% ~ 80% RH、結露なきこと

困ったときは

OneLINK Bridgeに接続されたVaddioカメラが期待どおりに動作しない場合は、他の操作を行う前にカメラのインジケータの色を確認してください。ただし、カメラのステータスLEDは設定でオフにできることに注意してください。

- 紫色：起動中またはスタンバイ(低電力)モードです。
- 青色：通常動作中です。
- 赤色：そのカメラはオンエアされています。(オンエアタリー機能)
- 青色の点滅：ビデオがミュートされています。
- 赤色の点滅：ビデオがミュートされているか、または障害の状態です。
- 黄色：ファームウェアアップデート中です。

次に、OneLINK BridgeのWebインターフェースにログインし、エラーメッセージを確認します。EZIMユニット（使用している場合）は発熱する傾向がありますが、これは正常です。もし温度が高すぎることをシステムが検出した場合、温度障害メッセージがWEBインターフェースページの上部に表示されます。

どちらの方法でも問題が明らかにならない場合は、以下のトラブルシューティングを参考にしてください。

トラブルは何か?	考えられる原因	確認と修正
何もできない。 カメラに電力が供給されていない。 	カメラがEZIMユニットに接続されていません(EZIMユニットを使用している場合)。	EZIMユニットをカメラに接続します。
	OneLINK Bridgeの電源アダプターがコンセントに接続されていないか、EZIMユニット(使用している場合)がOneLINK Bridgeに接続されていません。	電源アダプターをコンセントに差し込むか、EZIMユニットをOneLINK Bridgeに接続します。
	接続ケーブルが不良です。	不良ケーブルを交換します。
	コンセントまで電源が来ていない。(ノートパソコンや携帯充電器など、他の電源が入るかどうかを確認してください。)	電源アダプターを別のコンセントに差し込みます。
	完全に動作しない。	販売店にお問い合わせください。
カメラが起動を完了しないか、準備完了状態になりません。	カメラのファームウェアが古い可能性があります。	カメラのファームウェアバージョンを確認し、必要に応じてカメラのファームウェアを更新してください。
	ケーブルに問題がある可能性があります。	短いケーブルでテストします。ケーブルのコネクタを端末し直してみます。
カメラはオンになっていますが、Webインターフェースは使用できません。	ケーブルが接続されていません。	すべてのネットワークケーブルとOneLINKケーブルが接続されていることを確認します。
	ネットワークまたはOneLINKケーブルが不良です。	不良ケーブルを交換します。
	カメラは参照したIPアドレスを使用していません。	Vaddioカメラの場合、IRリモコンのData Screenボタンを押して、カメラのIPアドレスを表示して確認します。

トラブルは何か?	考えられる原因	確認と修正
カメラと通信しない	イーサネットまたはRS-232ケーブルの一方の端が間違っただけポートに接続されています。	EZIMユニット またはOneLINK Bridge からカメラへのケーブルを確認します。
	間違っただけケーブルが接続されています (カスタムCiscoケーブルが必要な場所に標準的なCat-5eケーブルを使用、またはその逆)。またはカスタムケーブルが間違っただけ方向に接続されています。	正しいケーブルを使用していることを確認します。 カスタムCiscoケーブルを使用する場合は、ラベルの指示に従って接続されていることを確認してください。
	カメラはOneLINK Bridgeと互換性がありません。	OneLINK Bridgeを互換性のあるカメラで使用していることを確認してください。
カメラはオンになっていますが、ビデオを送信していません。	ケーブル長に問題がある可能性があります。	ディスプレイをカメラに直接接続して、カメラからのHDMI出力を確認します。このとき問題なくビデオを表示する場合は、適切な長さでグレードのケーブル(Cat-6またはCat-7)を使用することで問題を解決できる場合があります。
映像が繰り返し落ちる。	PTZ動作中にこの現象が発生した場合は、カメラに十分な電力が供給されていません。	EZIMユニットとOneLINK Bridgeを短い(2~3m)CATケーブルで接続してカメラの動作を確認してください。カメラが正常に動作する場合、問題はOneLINKケーブルの長さです。適切なグレードのケーブル(Cat-6またはCat-7)を使用すると、問題を解決できる場合があります。
	ケーブルインダクタンスの問題の可能性。	配線したケーブルが長すぎた場合に、余分なケーブルを巻いて処理しないでください。 できるだけ必要な長さのケーブルを使用してください。
ビデオとオーディオが一致しません。遠隔の相手が話し始める前に、音声が届きます。	オーディオ信号がビデオ信号の前に到着しています。これは正常ですが、望ましくありません。	該当するオーディオ出力 (ライン出力、HDMI 出力、またはUSB Record出力)のレイテンシを有効にし、ミリ秒単位で値を入力します。
会議コーデックに接続すると、遠隔のオーディオが定期的に途切れ、問題が悪化する可能性があります。	エコーキャンセル機能が、コーデックとOneLINK Bridge の両方で有効になっています。	OneLINK Bridge のエコーキャンセル機能を無効にします。

トラブルは何か?	考えられる原因	確認と修正
音声のフィードバックまたはエコーが強調されます。	エコーキャンセル機能が無効です。	会議コーデックでOneLINK Bridgeを使用する場合は、コーデック側でエコーキャンセルを有効にします。それ以外の場合は、OneLINK Bridge でエコーキャンセルを有効にします。
Polycom カメラがリモートに反応しない。	OneLINK Bridgeは、IR信号の転送はできません。	PolycomカメラのIRリモコンを会議コーデックに向けて操作します。

使用上の注意点

製品に汚れが付いた場合は、清潔で柔らかい布で拭いてください。レンズにはレンズクリーナーを使用してください。研磨剤は使用しないでください。

本製品を食べ物や水に近づけないでください。

次のような環境では、本製品の操作や保管をしないでください:

- 40°C 以上または0°C 以下の温度
- 高湿度、結露または湿った環境
- 荒れ模様の天候
- 激しい振動
- 27G以上の横軸への加速
- 過剰な静電気放電がある乾燥した環境

本製品を分解しないでください。保証が無効になります。

vaddio®

- この製品を安全にお使いいただくために、設置・運用には十分な安全対策を行ってください。
- 商品写真やイラストは、実際の商品と一部異なる場合があります。
- 掲載内容は発行時のもので、予告なく変更されることがあります。変更により発生したいかなる損害に対しても、弊社は責任を負いかねます。
- 記載されている商品名、会社名等は各社の登録商標、または商標です。



ヒビノインターサウンド株式会社

〒105-0022 東京都港区海岸2-7-70 TEL: 03-5419-1560 FAX: 03-5419-1563

E-mail: info@hibino-intersound.co.jp <https://www.hibino-intersound.co.jp/>